

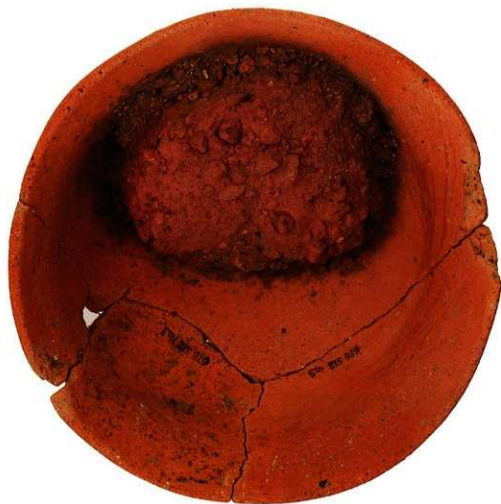
# 中大類金井遺跡 3

—集合住宅の建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2017

高 崎 市 教 育 委 員 会  
佐 藤 哲 朗  
山 下 工 業 株 式 会 社

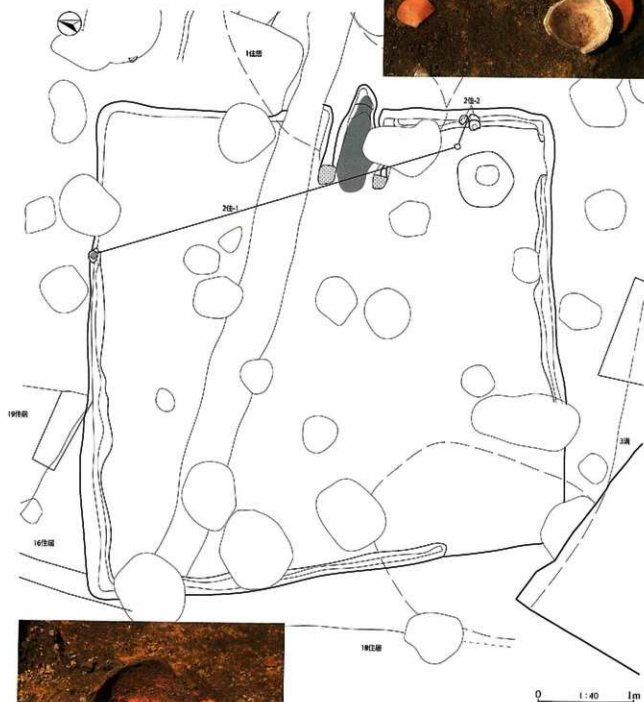




2号住居跡出土（2住-1）

# 2号住居跡 赤色土塊の入った坏(2住-1) 接合状況

赤色土塊が入った土師器の坏片は住居壁際で確認された。一方、カマドの南にある土器集中部から出土し土師器片と接合しほぼ1個体となった。



## 例 言

1. 本書は、佐藤哲朗による集合住宅の建設に伴う中大類金井遺跡3の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 発掘調査は高崎市教育委員会指導のもと、事業者から委託を受けた山下工業株式会社（代表取締役 山下 尚）が実施し、その費用については事業者が全額負担した。
3. 発掘調査の要項は次のとおりである  
遺跡所在地 群馬県高崎市中大類町字金井分509番3  
高崎市遺跡調査番号 676  
調査面積 192.3㎡  
期間 【現地調査】 平成28年6月1日～平成28年7月15日  
【整 理】 平成28年7月16日～平成29年3月31日  
調査担当者 青木利文（山下工業株式会社 文化財事業部 調査技術員）  
調査監督員 矢島 浩（高崎市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財担当係長）
4. 整理作業及び本書作成は青木を中心に大谷正芳 谷藤龍太郎 堀地文子 松澤直子（山下工業株式会社）が行った。
5. 遺構図作成はタナカ設計（田中隆明）。
6. 本書の執筆については1章を矢島、それ以外を青木が行った。  
発掘調査資料及び出土遺物は、一括して高崎市教育委員会が保管している。
7. 発掘調査及び報告書の作成にあたっては、下記の機関・諸氏からご助言・ご協力を賜った。（五十音順・敬称略）
8. 笠原仁史 佐藤富美 澤田福宏 杉山秀宏 谷藤保彦 角田真也 永井智教 中村岳彦 三ツ橋勝 横澤真一

## 凡 例

1. 遺跡、全体図におけるX・Y値は、平面直角座標IX系（世界測地系）の座標値、挿図中の北は座標北である。
2. 本報告書で用いる座標値は、全て世界測地系測地成果2011である。
3. 本報告書においてはX=36140・Y=69590を起点とし、任意のグリッドを設定し、大グリッドの10mグリッドと大グリッドを25分割した小グリッドを用いた。
4. 遺物注記で用いる遺構等の略称は以下のとおりである。  
【住居跡】・・S I 【土坑】・・S K 【溝】・・S D
5. 土層における含有物量は、多量（50～30%）・中量（25～15%）・少量（10～5%）微量（1～3%）と表記した。
6. 本報告書で用いる遺跡地図・遺構図・遺物実測図等の縮尺はすべてにスケールを表示した。
7. 本書掲載の第1図は高崎市発行の1/2,500「高崎市都市計画基本図」、第2図は国土地理院発行1/25,000地形図を用い一部改用了。
8. 土器の色調観察は「新版 標準土色帖」（農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修2011）を用いた。
9. 遺物写真については基本的に約1/3を使用した。鬚類・羽釜については1/4、管玉は1/1を使用した。

# 目次

## 例言

## 凡例

## 目次

第1章	調査に至る経緯	1
第2章	周辺の地形と道跡	2
第3章	調査の概要	3
1	調査の方法	3
2	グリッドの設定	3
3	調査の経過	3
4	確認された道跡と基本図	3
第4章	確認された道跡と道物	5
1	住居跡	5
2	土坑	20

3	焼土道物	24
4	溝	24
5	道場外遺物	26
第5章	まとめ	30
1	2号住居跡出土の赤色粘土瓦について	30
2	住居跡の年代	30
3	周辺の道跡	31
4	総括	31

## 写真図版

## 報告書抄録

## 挿図目次

第1図	中人頭金井遺跡3位図	1
第2図	周辺の地形	2
第3図	グリッド設定	3
第4図	中大金井遺跡3全体図	4
第5図	住居跡概略図	5
第6図	1号住居跡平面図・断面図・カマド	6
第7図	1号住居跡出土遺物(その1)	6
第8図	1号住居跡出土遺物(その2)	7
第9図	2号住居跡平面図・断面図	7
第10図	2号住居跡カマド平面図・断面図	8
第11図	2号住居跡出土遺物	8
第12図	8号住居跡出土遺物	8
第13図	8号住居跡平面図・断面図	8
第14図	21号住居跡平面図・断面図	9
第15図	21号住居跡出土遺物	9
第16図	4号住居跡平面図・断面図・カマド	9
第17図	4号住居跡出土遺物	9
第18図	22号住居跡平面図・断面図	10
第19図	16号住居跡出土遺物	10
第20図	16号住居跡平面図・断面図	10
第21図	19号住居跡出土遺物	10
第22図	19号住居跡平面図・断面図	10
第23図	3号住居跡出土遺物	11
第24図	20号住居跡出土遺物	11
第25図	3号・20号住居跡平面図・断面図	11
第26図	5号住居跡平面図・断面図・カマド	11
第27図	5号住居跡カマド平面図・断面図	12
第28図	5号住居跡出土遺物	12
第29図	9号住居跡平面図・断面図・カマド	12
第30図	9号住居跡出土遺物	12
第31図	13号住居跡平面図・断面図・カマド	13
第32図	13号住居跡出土遺物	13
第33図	15号住居跡平面図・断面図	13
第34図	15号住居跡出土遺物	14
第35図	11号・14号住居跡平面図・断面図・カマド	14
第36図	11号住居跡出土遺物	15
第37図	12号住居跡平面図・断面図・カマド	15
第38図	12号住居跡出土遺物	16
第39図	6号住居跡平面図・断面図・カマド	16
第40図	6号住居跡出土遺物	16
第41図	23号住居跡出土遺物	17
第42図	23号住居跡平面図・断面図	17
第43図	10号住居跡出土遺物	17
第44図	10号住居跡平面図・断面図	17
第45図	24号住居跡出土遺物	17
第46図	24号住居跡平面図・断面図	18
第47図	25号住居跡平面図・断面図・カマド	18
第48図	25号住居跡出土遺物	18
第49図	7号住居跡出土遺物	19
第50図	7号住居跡平面図・断面図	19
第51図	18号住居跡平面図・断面図	19
第52図	26号住居跡平面図・断面図	20
第53図	26号住居跡出土遺物	20
第54図	3・4・90・34・57・69・70号土坑平面図・断面図	20
第55図	土坑出土遺物	20
第56図	土坑断面図	23
第57図	焼土道物平面図・断面図	24
第58図	1号・2号・3号溝平面図・断面図	25
第59図	道場外遺物	26
第60図	中大金井遺跡3と道場外遺物出土の土器群	30
第61図	住居跡の位置	30
第62図	中人頭金井の遺跡	30

## 挿表目次

第1表	市況経過	3
第2表	土坑調査、深さ・層土表	21
第3表	遺物調査表	26
第4表	住居跡の年代	30

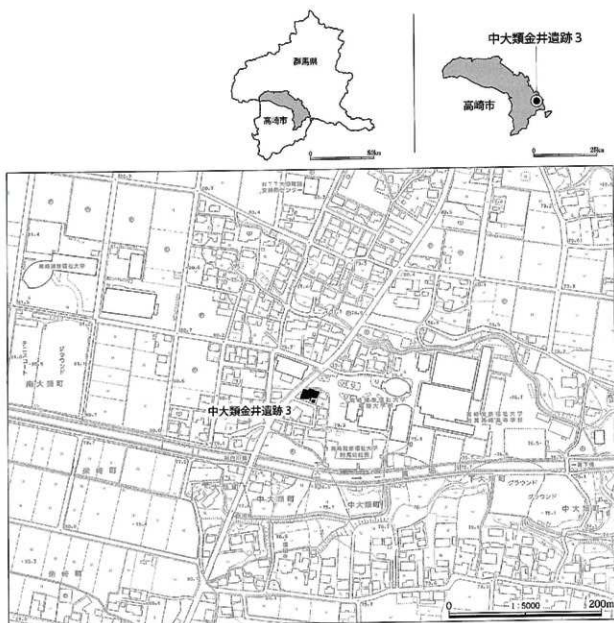
## 写真図版目次

図版1	1. 調査区全体 南から	図版4	1. 13号住居跡 西から	図版6	1. 25号住居跡 西から
	2. 1号住居跡 西から		2. 13号住居跡遺物出土状況 西から	2.	25号住居跡カマド天井部 直上から
	3. 1号住居跡カマド遺物出土状況 西から		3. 13号住居跡遺物北中部 直上から	3.	7号住居跡敷方 西から
	4. 1号住居跡遺物北中部 西から		4. 15号住居跡 西から	4.	3号土坑遺物出土状況 西から
	5. 1号住居跡カマド 西から		5. 11号住居跡 西から	5.	34号土坑 南から
図版2	1. 2号住居跡 西から		6. 11号住居跡カマド天井部 西から	6.	1号・2号溝 北から
	2. 1号住居跡出土遺物 西から		7. 11号住居跡カマド 西から	7.	3号溝 西から
	3. 2号住居跡カマド 西から		8. 15号住居跡カマド 西から	8.	3号溝断面経度トレンチ 南から
	4. 8号住居跡 西から	図版5	1. 12号住居跡遺物出土状況 西から	図版7	出土遺物写真
	5. 21号住居跡 西から		2. 12号住居跡カマドと 12号土坑の埋り入れ 西から	図版8	出土遺物写真
	6. 4号住居跡 西から		3. 6号住居跡敷方 南から	図版9	出土遺物写真
	7. 4号住居跡遺物出土状況 西から		4. 6号住居跡カマド 南から	図版10	出土遺物写真
	8. 22号住居跡断面の現存 西から		5. 23号住居跡断面の現存 西から		
図版3	1. 16号・17号住居跡 西から		6. 10号住居跡 西から		
	2. 3号住居跡 南から		7. 24号住居跡 西から		
	3. 5号住居跡 西から		8. 24号住居跡カマド 西から		
	4. 5号住居跡遺物出土状況 経度				
	5. 5号住居跡カマド 西から				
	6. 9号住居跡 西から				
	7. 9号住居跡カマド遺物出土状況 東から				
	8. 9号住居跡カマド 南から				

## 第1章 調査に至る経緯（第1図）

平成27年9月、開発事業者 佐藤哲朗氏から、高崎市中大類町において計画している集合住宅建設に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下市教委と略）にあった。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地である中大類金井遺跡内に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年9月29日には市教委へ埋蔵文化財試掘（確説）調査依頼書が提出され、同年10月19日に試掘（確説）調査を実施した。その結果、古墳時代の竪穴建物を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名は「中大類金井遺跡3」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織等人事務取扱要項」に順じ、平成28年5月23日に開発事業者 佐藤哲朗氏と民間調査機関 山下工業株式会社・市教委の三者協議を締結、平成28年5月27日に開発事業者 佐藤哲朗氏と民間調査機関 山下工業株式会社との間で契約を締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督することとなった。



第1図 中大類金井遺跡3 位置図

## 第Ⅱ章 周辺の地形と遺跡（第2図）

中大類金井遺跡3は高崎市街中心地から東に約4kmの中大類町にある。地形的には榛名山南麓の相馬ヶ原扇状地から続く前橋台地の南東部にある。この前橋台地は更新世後期の浅間山火山の山体崩落に伴う前橋泥流を基層としており、台地の中央を流れる井野川によって二分され、井野川以南の烏川との間には特に高崎台地と呼ばれている。高崎台地を井野川が開削した谷底低地である井野川低地帯には高崎泥流堆積物層がさらに覆っている。井野川低地帯の高崎泥流層上面は、西南西から東南東にゆるく傾斜し、井野川や支流河川の洪水により自然堤防と後背湿地とが錯綜している。本遺跡は井野川右岸の井野川低地帯の範囲に該当し、さらに高崎泥流層上面の自然堤防上にある。遺跡周辺は井野川本流へは500mと近く、支流の一貫堀川や小規模河川に深い谷地形が作り出され、起伏の激しい複雑な地形となる。本遺跡は南約60mには一貫堀川の旧河道であった谷があり、北約100mにも小河川による谷となり、両谷に挟まれた台地状の地形に立地する。隣接する中大類金井遺跡(2)、および中大類金井分遺跡(3)では古墳時代と平安時代の住居跡が確認されているほか縄文時代の土器と石器が確認されている。

縄文時代の遺跡としては万相寺遺跡(14)、高崎情報団地Ⅱ遺跡(13)など中期～後期の集落がある。

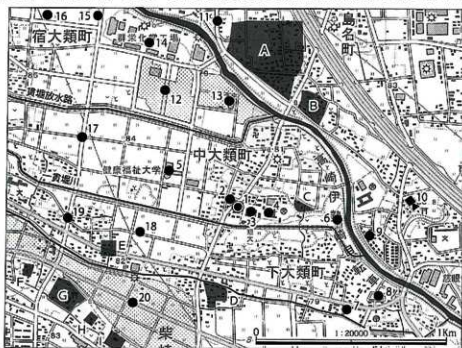
弥生時代では元島名遺跡(11)が中期～後期の集落で、万相寺遺跡(14)、高崎情報団地遺跡・同Ⅱ遺跡(12・13)後期の集落や、方形周溝墓が確認されている。

古墳時代では井野川左岸にある前方後方墳の元島名將軍塚古墳(10)がある。また、高崎情報団地遺跡(12)では中期～後期にかけての群集墳が確認されている。一方、古墳時代の集落としては高崎情報団地遺跡・同Ⅱ遺跡(12・13)初期～後期、井野川左岸の元島名下河原遺跡(9)が中期～後期である。

奈良・平安時代では高崎情報団地遺跡・同Ⅱ遺跡(12・13)で集落のほかに古代の道路遺構(東山道)が確認されている。その他の集落遺跡は(6・8・17)などがある。一方、本遺跡の西を中心にA・S・B・D・F・G・H・Iが確認されている。

中世には井野川左岸の元島名城(A・B)の城郭のほか、自然堤防や高崎台地上に館・屋敷(C・D・E・F・G・H・I)がある。また発掘では中大類・天田遺跡(4)や山鳥・天神遺跡(16)などで堀や掘立建物跡が確認されている。

1. 中大類金井遺跡3
2. 中大類金井遺跡
3. 中大類金井分遺跡
4. 中大類・天田遺跡
5. 中大類沖田遺跡
6. 中大類稲井遺跡
7. 下大類・中道下遺跡
8. 下大類腰元遺跡
9. 元島名下河原遺跡
10. 元島名將軍塚古墳
11. 元島名遺跡
12. 高崎情報団地遺跡
13. 高崎情報団地Ⅱ遺跡
14. 万相寺遺跡
15. 天神久保遺跡
16. 山鳥・天神遺跡
17. 南大類東沖・稲荷遺跡
18. 柴崎富路群V
19. 柴崎吹手B・吹手西D遺跡
20. 柴崎富路群
- A. 元島名城
- B. 元島名内出
- C. 障子屋敷
- D. 大類客居
- E. 幸人屋敷
- F. 柴崎西浦屋敷
- G. 高井屋敷
- H. 柴崎稲井屋敷
- I. 光明寺



第2図 周辺の遺跡



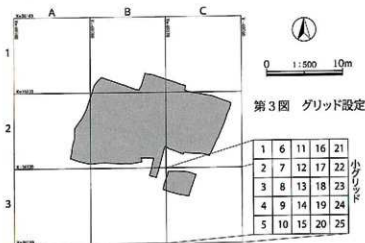
# 第Ⅲ章 調査の概要

## 1. 調査の方法

本発掘調査は集合住宅建設に伴い実施された。調査区は建物部であるが、建物面積に対し敷地全体の面積が狭く、調査区を反転し調査をおこなった。調査は試掘の結果により遺構が集中する北部と、希薄な南部の南北に分けて反転し、総面積は192.3㎡となった。調査は遺構の集中する北部から行い、1層を重機により除去し、その後、人力による遺構確認を行った。遺構確認の結果は、焼土集中部（カマド）が数カ所で確認された。掘削は、焼土集中部（カマド）の周辺にトレンチ掘削および、ベルトを残し人力掘削を行った。出土遺物はカマド内や床面にある遺物を中心に図化を行った。一方、遺物包含層などから出土した遺物は遺構外遺物として扱った。遺構の記録は平面図・断面図はトータルステーションと電子平板を用い作成を行った。なお、断面図については一部、手実測で行っている。遺構の写真は35mmモノクロ、カラーリバーサルおよびデジタルカメラを使用した。遺構掘削の完了後は北部および南部の2回に分けて高所作業車により撮影を行った。

## 2. グリッドの設定（第3図）

調査で用いるグリッドは世界測地系  $X = 36140 \cdot Y = 69590$  を起点とし、10mの大グリッドを設定し、北から南に向かって1～3、西～東に向かってA～Cとした。また、大グリッドは更に25分割し、2mの小グリッドを設定した。小グリッドは北東隅から南に向かって1～5列となり、次の6～10列は東に設定し、順次この原則となる。



## 3. 調査の経過

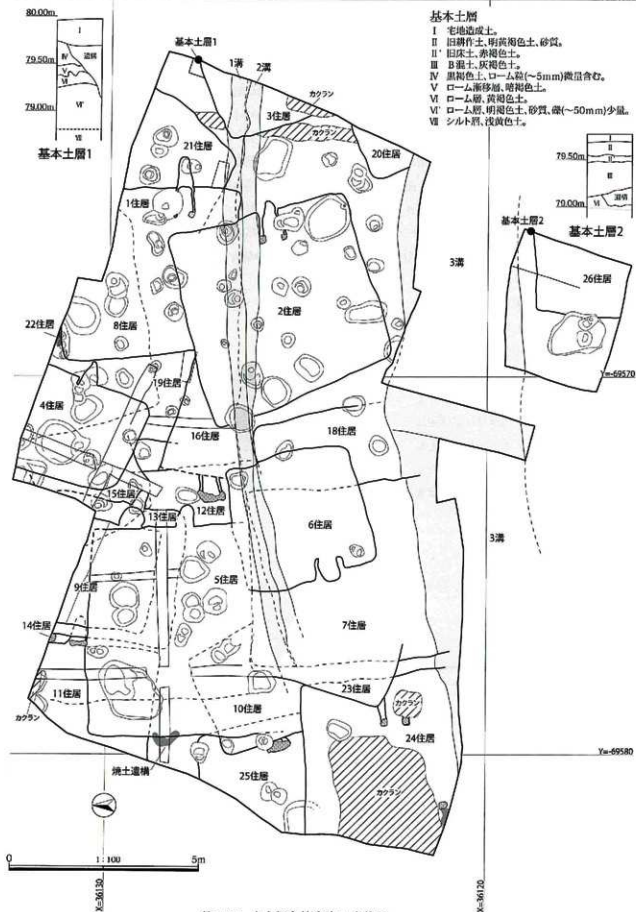
調査は平成28年6月1日～7月15日まで実施した。詳細は下記の表に示した。

第1表 作業経過

作業内容	6月			7月		
	10	20	30	10	15	
表土掘削	—					
遺構確認	—					
遺構記録	—					
清堀 高所撮影						
埋め戻し						
表土掘削						
遺構確認						
遺構記録						
清堀 高所撮影						
埋め戻し						

## 4. 確認された遺構と基本層序（第4図）

本遺跡ではほぼ全面が遺構であった。特に北部では住居跡および土坑、溝が確認された。一方、試掘で遺構が希薄とされた南部は中世段階で埋没した3号溝に壊されたものであった。基本層序は調査区東壁の2カ所で確認した。基本土層2は3号溝による窪みによりⅢ層（As-B混土）が確認できたが、基本土層1ではⅢ層は確認できず、Ⅱ層・Ⅲ層は削平され、1層（造成土）の直下が遺構構築面であったものと見られる。

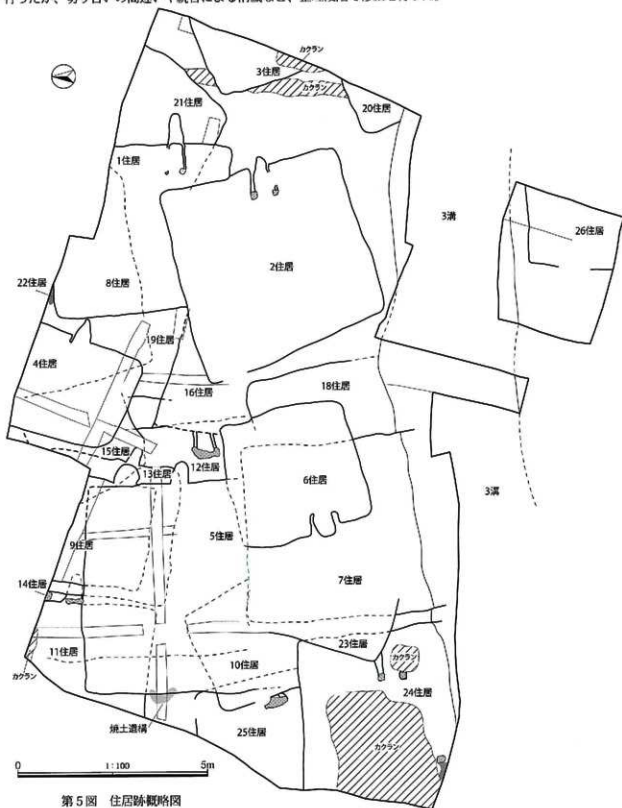


第4図 中人類金井遺跡3 全体図

## 第IV章 確認された遺構と遺物

### 1. 住居跡 (第5図)

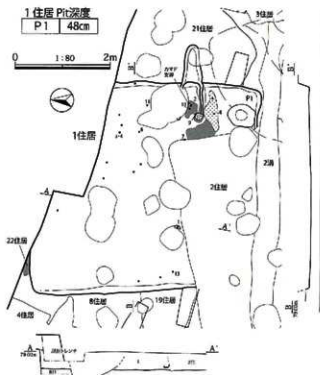
本遺跡においては 25 軒の住居跡が確認された。住居跡は本調査区内のほぼ全面で確認されている。住居跡の年代は古墳時代から平安時代にかけての住居となる。掘削時にはカマドが残る住居跡を新しい遺構として掘削を行ったが、切り合いの間違いや統合による消滅など、整理段階で修正を行った。



第5図 住居跡概略図

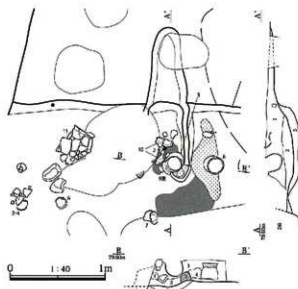
# 1号住居跡（遺構：第6図、遺物：第7・8図）

本遺構はC1・C2グリッドにまたがり、北は遺構外となる。形状は方形で南北4.5m、東西は推定で4.6m、軸方向はN-88°-Eである。床面はおおよそ79.20m～79.30m前後となる。重複は2号・4号住居跡に切られ、8号・19号・21号住居跡より新しい。土坑は4号・70号土坑に切られるが、その他の土坑との新旧は不明である。カマドは東の南寄りにあり、70号土坑により袖の一部が壊されている。袖の先端には黄褐色のやや風化した砂岩を構築材として利用している。カマド内に裏（9・10）が確認され、底面に支脚が1カ所確認された。煙道は約0.8mである。貯蔵穴は南東隅のP1が想定される。出土遺物はカマド内と周辺から土師器の坏および裏が出土した。また、床面にも土師器の坏、裏などが確認されている。なお、本遺構は調査時においては2号住居跡より新しい住居として掘削を行ったが、整理の段階で2号住居跡が新しい遺構と認識できたため、本遺構で取り上げた遺物の内、2号住居跡に帰属するものもある。遺構の年代は出土遺物から6世紀前半とみられる。



1号住居跡

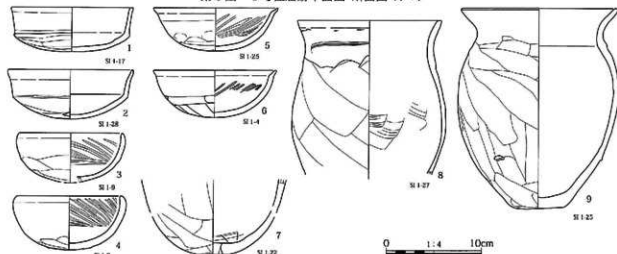
1跡 灰褐色 ロームブロック（～10cm）を少量、粘土粒と炭化物を微量含む。



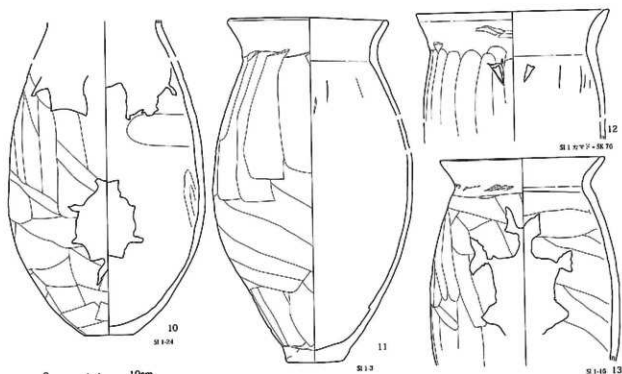
1号住居跡カマド

- 1跡 灰褐色 粘土を少量、小礫（～10cm）を少量含む。
- 2跡 灰褐色 しまりあり、粘土あり。粘土、ローム粒を少量、灰を含む。
- 3跡 黄褐色 カマド構築材、やや風化した砂岩。
- 4跡 黄褐色 カマド構築材の崩壊土。
- 5跡 灰褐色 ローム粒・粘土粒、炭化物粒を中量含む。

第6図 1号住居跡平面図・断面図・カマド



第7図 1号住居跡出土遺物（その1）

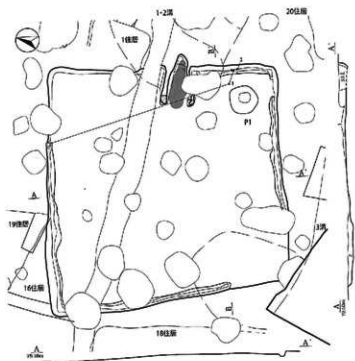


第8図 1号住居跡出土遺物(その2)

## 2号住居跡 (造構: 第9・10図、遺物: 第11図)

本造構はC2・B2グリッドにまたがる。形状は方形で東西5.1m、南北5.0m、軸方向はN-74°・Eである。床面はおおよそ79.20～79.30m程度となる。壁際に周溝を伴う。重複は16号住居跡が新しいものと想定され、

1号住居跡より新しい。土坑は1号・3号・53号・95号土坑に切られるが、その他の土坑との新旧は不明である。カマドは東にあり、53号土坑により袖の一部が壊されている。袖の先端には1号住居同様に黄褐色のやや風化した砂岩を構築材として利用している。煙道が残り、長さは約0.25mである。貯蔵穴は南東隅のP1が想定される。出土遺物はカマドの南脇に土師器の坏および甕底部が集中的に出土した。なお、カマド脇の集中部と北辺の際から赤色の土塊の入った坏(2住-1)と接合したことにより、本造構が1号住居跡より新しい住居と確定した。なお、調査時には1号住居跡が本造構より新しいものと想定したため、本造構内に1号住居跡として取り上げた遺物が存在するが、本造構に帰属させた。年代は出土遺物から6世紀前半～中頃と考えられる。

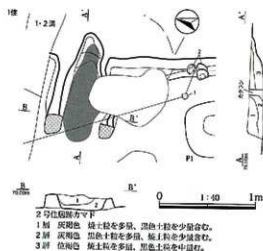


2号住居跡  
1層 黒褐色 ロームブロック(～30cm)・粘土層を中盤含む。  
2層 黒褐色 しまりややわい、ローム腔を散見含む。

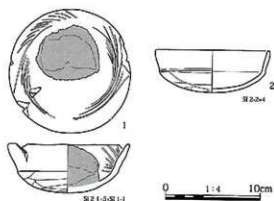
2号住居 Pit深さ  
P1 54cm

第9図 2号住居跡平面図・断面図

0 1:80 2m



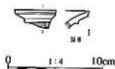
第10図 2号住居跡カマド平面図・断面図



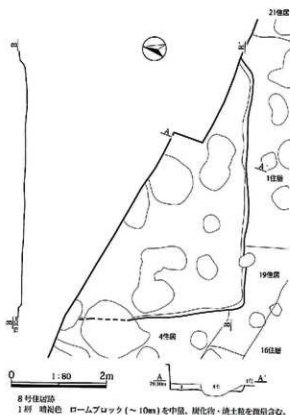
第11図 2号住居跡出土遺物

### 8号住居跡 (遺構: 第13図、遺物: 第12図)

本遺構はB1・B2・C1・C2にまたがっており、北の大半は調査区外となる。形状は不明となるが東西5.3m、南北は遺構外に延び、軸方向はN-84°-Eである。床面はおおよそ79.10m前後となる。重複は1号・4号・19号・22号住居跡より古い。土坑は4号・34号・44号・61号・65号・66号・74号・99号土坑に切られるが、その他の土坑との新旧は不明である。カマドなどの施設は現状では確認できず、遺構外にあるものと想定される。出土遺物は覆土から須恵器片などがあつた。遺構の年代は1号住居跡より古い。



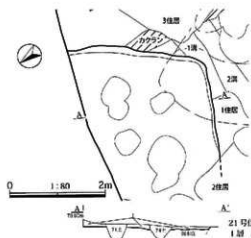
第12図 8号住居跡出土遺物



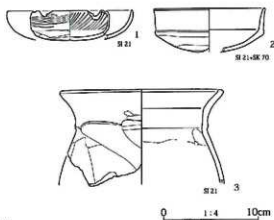
第13図 8号住居跡平面図・断面図

### 21号住居跡 (遺構: 第14図、遺物: 第15図)

本遺構はC2グリッドにあり、北半は調査区外で、西は1号住居跡により切られている。形状は不明となり、南北3.0m程度で、軸方向はN-64°-Wである。床面はおおよそ79.20～79.30m前後となる。重複は西にある1号住居跡に切られる。土坑は72号・74号土坑に切られるが、その他の土坑との新旧は不明である。カマドなどの施設は現状では確認できず、遺構外にあるものと想定される。出土遺物は覆土から土師器の坏および甕が出土した。遺構の年代は1号住居より古く、出土遺物は6世紀前半とみられる。



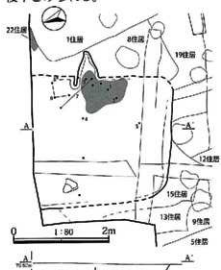
第14図 21号住居跡平面図・断面図



第15図 21号住居跡出土遺物

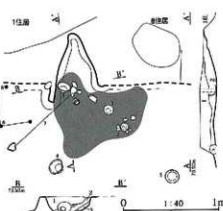
#### 4号住居跡 (遺構: 第16図、遺物: 第17図)

本遺構はB1・B2グリッドにまたがり、北は調査区外となる。形状は長方形と推定でき東西で約3.0m、南北は不明となるが、軸方向はN-109°-Eである。床面はおおよそ79.25m前後で、22号住居跡と同じ高さであった。重複は8号・15号・19号・22号住居より新しい。また、遺構範囲内に複数の土坑が確認されるが、これらは本遺構より古いものと考えられる。カマドは東にあり壁外に出ており、長さは約55cmである。また底面には炭が集中し、須恵器の坏および碗などが出土した。出土遺物はカマドおよび周辺の床面より須恵器の坏、高台付碗、土釜あるいは羽釜の底部、灰釉陶器の碗と段皿などが確認された。遺構の年代は出土遺物から10世紀後半とみられる。



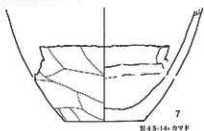
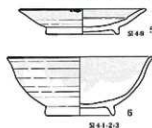
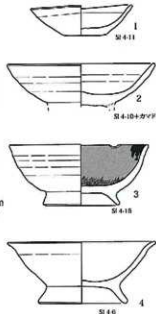
4号住居跡  
1階 黒褐色 しまりや中強い、ロームブロック(〜10mm)を少量、粘土粒を微細含む。

第16図 4号住居跡平面図・断面図・カマド



4号住居跡カマド

- 1階 黒褐色 ローム粒・焼土粒を微細含む。
- 2階 黒色 しまり強い、焼土粒・炭化物を微細含む。
- 3階 黒色 焼土粒を多量に含む。



第17図 4号住居跡出土遺物



## 22号住居跡（遺構：第18図）

本遺構はB1・C1グリッドにまたがる。遺構はやや硬化した平坦面と炭・焼土の集中部から住居跡と想定した。形状は不明である。床面はおおよそ79.25m程度となる。重複は4号住居跡に切られ、8号住居跡より新しい。土坑は範囲内で34号・44号・61号・65号・66号・79号土坑などが確認されたが本遺構はこれらより新しい。本遺構はやや硬化した平坦面と炭・焼土の集中部から住居跡と想定した。平坦面は4号住居跡の床面とほぼ同じ標高値であったが、4号住居跡の範囲外に広がり、東にある炭や焼土の集中部にまで達する。本遺構はこの炭・焼土の集中部と平坦面から住居跡とした。なお、出土遺物はなく、遺構の年代は不明である。



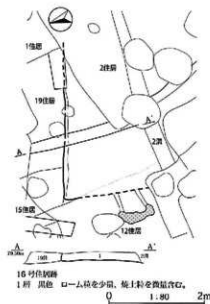
第18図 22号住居跡平面図・断面図

## 16号住居跡（遺構：第20図、遺物：第19図）

本遺構はB2グリッドにある。形状は不明で北壁のみが確認された。床面はおおよそ79.30m程度の平坦面となる。重複は19号住居跡を切っている。6号住居跡については新旧不明である。このほか24号土坑より新しいが、42号土坑は新旧不明である。出土遺物は覆土より土師器の坏、須恵器の碗、羽釜などが確認されている。本住居は北壁と平坦面が確認され住居跡として扱った。出土遺物は2号・12号住居跡より新しいものと想定され、新旧を誤って掘削した可能性が高い。よって遺構の西部と南部の形状は不明となった。遺構の年代は出土遺物から10世紀後半とみられる。



第19図 16号住居跡出土遺物



第20図 16号住居跡平面図・断面図

## 19号住居跡（遺構：第22図、遺物：第21図）

本遺構はB2・C2グリッドにまたがる。形状は不明で西壁のみが確認された。床面はおおよそ79.30m程度の平坦面である。重複は4号・16号住居跡に切られ、1号・8号住居跡より新しいものと想定される。このほかに範囲内で土坑が複数確認されたが新旧は不明である。出土遺物は覆土から須恵器の坏などが確認されている。本遺構は西壁と平坦面から住居跡として扱った。遺構の年代は出土遺物から10世紀後半とみられる。



第21図 19号住居跡出土遺物



第22図 19号住居跡平面図・断面図



### 3号住居跡（遺構：第25図、遺物：第23図）

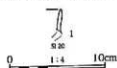
3号住居跡はC 2グリッドにある。形状は北西隅のみ確認でき、大半は調査区外となるため全体の規模は不明であるが軸方向はN-66°-Eである。床面はおおよそ79.20m程度となる。重複は中世・近世の溝に切られるが、その他の遺構との切り合いはない。出土遺物は覆土から土師器の坏片などがあり、6世紀代とみられる。



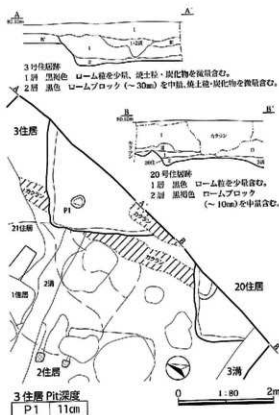
第23図 3号住居跡出土遺物

### 20号住居跡（遺構：第25図、遺物：第24図）

20号住居跡はC 2グリッドにある。形状は北西隅のみ確認でき、大半は調査区外となるため全体の規模は不明であるが軸方向はN-66°-Eである。床面はおおよそ79.20m程度となる。重複は中世とみられる3号溝に切られるが、その他の遺構との切り合いはない。出土遺物は覆土から土師器の坏片などがあり、6世紀代とみられる。



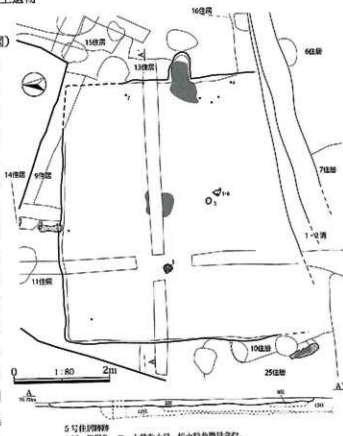
第24図 20号住居跡出土遺物



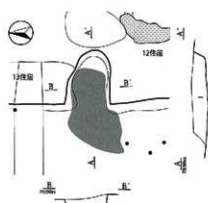
第25図 3号・20号住居跡平面図・断面図

### 5号住居跡（遺構：第26・27図、遺物：第28図）

本遺構はB 1・B 2グリッドにまたがる。形状は方形と推定され東西5.5mで、南側は1号・2号溝に切れ、遺構の西部は不明となるが軸方向はN-89°-Eである。床面はおおよそ79.45m程度となる。重複は6号・9号・10号・11号・12号・13号・14号住居跡より新しい。カマドは東にあり、燃焼部は遺構壁外に出ており、長さは55cmほどである。また、カマド底面には炭と焼土の集中部があった。出土遺物は床面より古墳時代の土師器の坏および小壺、その他に、羽釜の口縁部片が確認された。本遺構は本遺跡内で最大の住居となった。床面は東のカマド燃焼部から広がる平坦面が確認でき、これを遺構の範囲とした。また、遺構範囲内にある9号・13号住居跡などを切る新しい住居跡とみなした。ただし、出土遺物は同一の床面から古墳時代の坏、小壺などもあり、異なる時代の住居跡を5号住居跡として掘削した可能性がある。

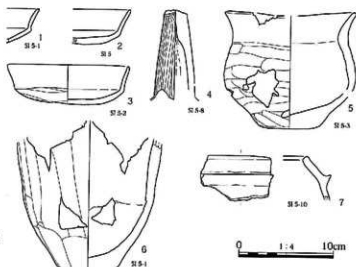


第26図 5号住居跡平面図・断面図・カマド



5号住居跡のカマド  
1層 黒褐色 焼土粒を少量、小礫・ロームブロック（～10cm）を散見含む。

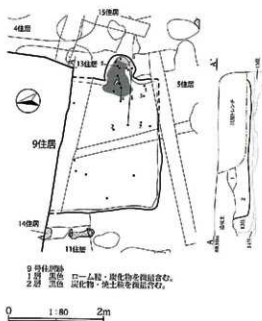
第27図 5号住居跡カマド平面図・断面図



第28図 5号住居跡出土遺物

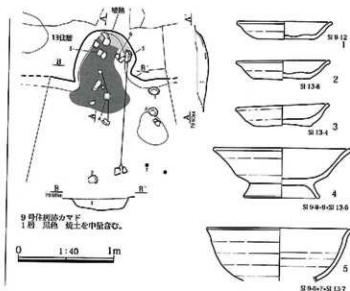
### 9号住居跡（遺構：第29図、遺物：第30図）

本遺構はB1・B2グリッドにまたがり、北は遺構外となる。形状は方形と推定され東西2.8m、南北は不明であるが、軸方向はN-101°-Eである。床面はおおよそ79.40m程度となる。重複は5号住居跡に切られ、13号住居跡より新しい。このほか範囲内では複数の土坑が確認されたが、本遺構より古い遺構となる。カマドは東の南寄りにあり、燃焼部は遺構壁外に出ており、長さは50cmである。またカマド底面に炭と焼土の集中部と支脚が1カ所確認された。出土遺物はカマド内およびカマド周辺から酸化焼成須恵器の皿、坏、羽釜などが出土した。遺構の年代は羽釜の出土や遺構の切り合いなどから11世紀前半とみられる。



9号住居跡  
1層 黒褐色 ローム粒・炭化物を散見含む。  
2層 黒褐色 焼土粒を散見含む。

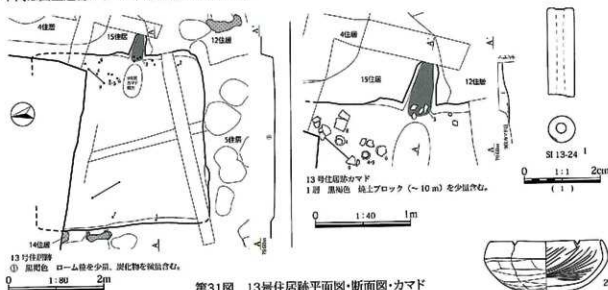
第29図 9号住居跡平面図・断面図・カマド



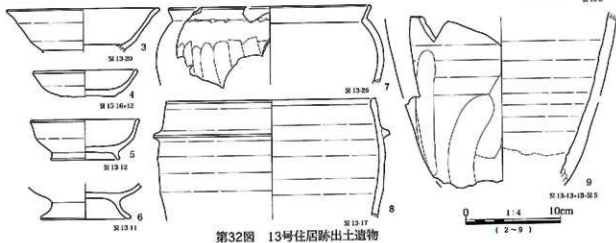
第30図 9号住居跡出土遺物

### 13号住居跡 (遺構：第31図、遺物：第32図)

本遺構はB1・B2グリッドにまたがり、北は調査区外である。形状は方形と推定され東西3.7m、南北は不明であるが、軸方向はN-98°-Eである。床面はおおよそ79.30m程度となる。重複は5号・9号住居跡に切られ、11号・15号住居跡より新しい。カマドは東にあり、燃焼部は壁外に出ており、端部は確認トレンチにより壊されている。また底面に炭が集中する。出土遺物はカマド周辺から須恵器の坏および碗、羽釜が出土した。遺構の年代は出土遺物から10世紀後半とみられる。



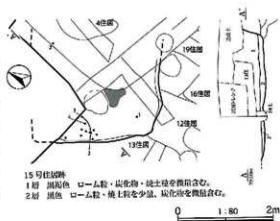
第31図 13号住居跡平面図・断面図・カマド



第32図 13号住居跡出土遺物

### 15号住居跡 (遺構：第33図、遺物：第34図)

本遺構はB1・B2グリッドにまたがり、北は調査区外で、東は4号住居跡に切られる。遺構形状は南壁と東壁が確認され、南北は推定値で2.7m程度となった。軸方向はN-64°-Eである。床面はおおよそ79.20m前後となる。重複は4号・13号住居跡に切られ、12号住居跡より新しい。このほか18号土坑にも切られる。出土遺物は床面から須恵器の碗、羽釜、甗などが出土した。遺構の年代は出土遺物から10世紀後半とみられる。



第33図 15号住居跡平面図・断面図



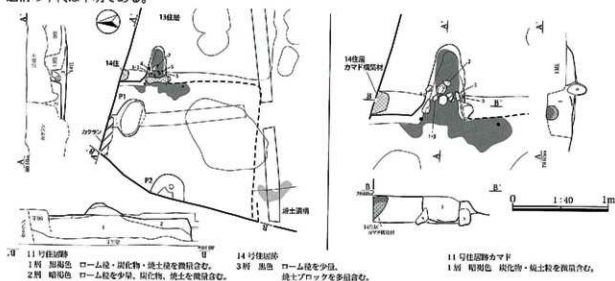
第34図 15号住居跡出土遺物

#### 11号住居跡（遺構：第35図、遺物：第36図）

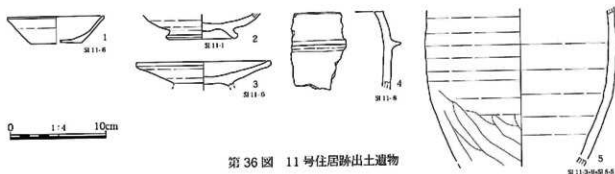
本遺構はB1・B2グリッドにまたがり、遺構の北と西は調査区外である。現存値は東西で2.9mとなり、軸方向はN-97°-Eである。床面はおおよそ79.35m前後となる。重複は5号・13号住居跡に切られ、12号住居跡より新しい遺構となる。その他、10号土坑に切られる。カマドは東にあり燃焼部は壁外に出ており、天井部が残るが、燃焼部東半部は13号住居跡により上層は壊されている。天井部の構築材は1号住居跡のカマドなどで利用された黄褐色のやや風化した砂岩である。また天井構築材は両脇に配置された石により支えている。底面に炭の集中部があり、中央に円礫の支脚がある。出土遺物はカマド内を中心に須恵器の坏、碗、皿および羽釜が出土した。遺構の年代は出土遺物から10世紀後半とみられる。なお、本事項の南辺は5号住居跡や遺構確認などにより立ち上がりが失われたため、調査区の西壁（B・B'）セクションから推定した。

#### 14号住居跡（遺構：第35図）

本遺構はB1グリッドにあり、遺構としては調査区際で確認されたカマドの構築材の残存部と北壁に残る断面のみのために、平面としては捉えることができなかったが、これを住居跡と想定し、14号住居跡とした。壁断面で確認される床面は79.30m前後となり、11号住居跡より低位となる。重複は11号・13号住居に切られる。カマドは構築材とみられる黄褐色のやや風化した砂岩で一部に被熱がみられた。出土遺物は確認されておらず、遺構の年代は不明である。



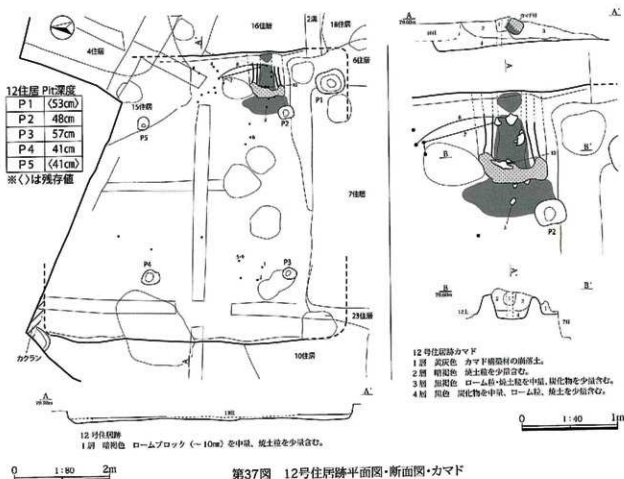
第35図 11号・14号住居跡平面図・断面図・カマド



第36図 11号住居跡出土遺物

# 12号住居跡 (遺構: 第37図、遺物: 第38図)

本遺構の位置はB1・B2グリッドにまたがり、北と南は住居跡との切り合いにより不明である。形状は方形と推定され、おおよそ東西6.2mとなり、軸方向はN-86°-Eである。床面は切り合いにより残りが悪いが、おおよそ79.30m前後となり、掘方が確認できた。重複は5号・6号・9号・10号・11号・13号・15号・16号住居跡に切られているが、7号・23号住居跡より新しい。このほか5号・6号・8号・10号・11号・12号土坑に切られる。カマドは東にあり、12号土坑により袖の一部が壊され、燃焼部東半部は16号住居により土層が壊されたものと想定される。袖の先端と天井部には黄褐色のやや風化した砂岩を構築材として利用されている。カマド内に土師器の破片が確認された。貯蔵穴は南東隅にあるP1が想定され、6号住居に切られている。柱穴はP2~P5の4基であったが、掘方の掘削時に確認された。出土遺物はカマド内およびカマド周辺に集中し、土師器の環、甕、壺などが出土した。なお、調査時には本遺構の東に17号となる住居跡を設定したが、本遺構と同一遺構とした。遺構の年代は出土遺物から6世紀後半とみられる。



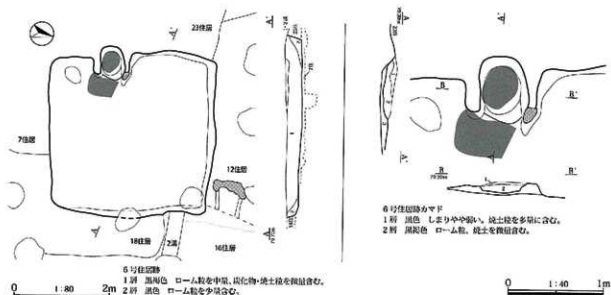
第37図 12号住居跡平面図・断面図・カマド



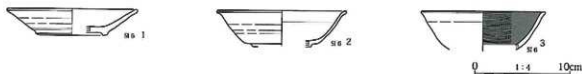
第38図 12号住居跡出土遺物

#### 6号住居跡（遺構：第39図、遺物：第40図）

本遺構の位置はB2グリッドにある。形状は方形で東西で約3.5m、南北が3.5mであり、軸方向はN-104°・Wである。床面はおおよそ79.05～79.10m前後となる。重複は5号住居跡に切られ、7号・12号・18号・23号住居跡より新しい。土坑は21号・87号土坑に切られる。なお住居の東部には22号土坑があるが、本遺構との切り合いは不明である。カマドは西辺にあり、本遺跡で西カマドとなるのは本遺構のみである。また、北袖の先端部には黄褐色のやや風化した砂岩の構築材が利用されている。出土遺物は包含層より須恵器の皿、杯、碗などがある。遺構の年代は出土遺物から9世紀後半とみられる。



第39図 6号住居跡平面図・断面図・カマド

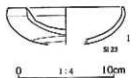


第40図 6号住居跡出土遺物

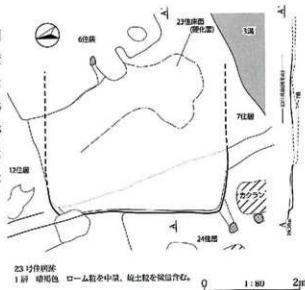
### 23号住居跡（遺構：第42図、遺物：第41図）

本遺構の位置はB2グリッドに位置する。遺構の東側は6号住居跡および地形の傾斜により不明となる。形状は南北が3.8mで、軸方向はN-106°-Eである。床面はおおよそ79.15～79.20m前後となる。重複は5号・6号住居跡に切られ、7号・10号・12号・24号住居跡より新しい。その他では5号土坑に切られる。カマドは東にあったものと想定され、6号住居跡により壊されたものと考えられる。

出土遺物は包含層より土師器の坏などがあり、遺構の年代は出土遺物から7世紀後半から8世紀前半とみられる。



第41図 23号住居跡出土遺物



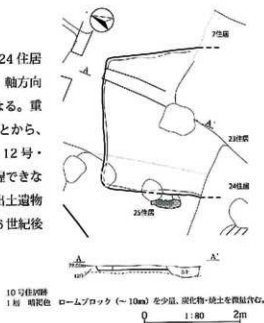
第42図 23号住居跡平面図・断面図

### 10号住居跡（遺構：第44図、遺物：第43図）

本遺構の位置はB2グリッドにある。遺構の南側は23号・24号住居跡などによりその範囲は不明である。形状は東西が約4.2mで、軸方向はN-65°-Eである。床面はおおよそ79.30～79.35m前後となる。重複は5号住居跡に切られるほか、カマドが確認できなかったことから、南東にある23号住居跡により壊された可能性がある。また、12号・25号住居より新しい。なお、24号住居との新旧には把握できなかった。土坑では、5号・90号・94号土坑に切られている。出土遺物は覆土より土師器の壺、甕がある。遺構の年代は出土遺物から6世紀後半とみられる。



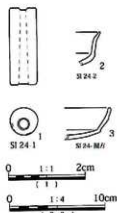
第43図 10号住居跡出土遺物



第44図 10号住居跡平面図・断面図

### 24号住居跡（遺構：第46図、遺物：第45図）

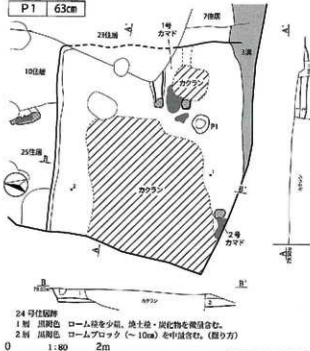
本遺構はA2・B2グリッドにまたがり、西は遺構外、南は3号溝により破壊される。形状は残存値で東西4m、南北4mで、軸方向はN-88°-Eである。床面はおおよそ79.20m～79.25m程度となり、床下には掘方がある。重複は5号・10号住居跡に切られ、25号住居を切る。土坑は93号・98号土坑に切られる。カマドは東に1号カマドがあり、23号住居とカクランにより袖部が壊されている。袖の先端には黄褐色の風化砂岩を構築材としている。一方、南には2号カマドがあり、床下から黄褐色砂岩の構築材のほか、灰と焼土の集中部があり、古いカマドと想定されるが、明確な検証はできなかった。柱穴は床下からP1が確認されている。出土遺物は土師器の坏、菅玉が確認された。遺構の年代は出土遺物から6世紀後半から7世紀前半とみられる。



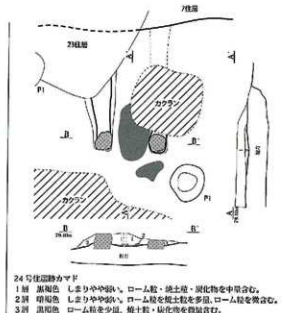
第45図 24号住居跡出土遺物



24号住居 Pit深度  
P1 63cm



第46図 24号住居跡平面図・断面図

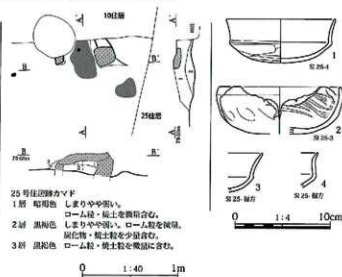


## 25号住居跡（遺構：第47図、遺物：第48図）

本遺構はA2・B2グリッドにまたがり、西は遺構外、東は10号住居、南は24号により切られている。形状は残存値で東西3.2m、軸方向はN-74°-Eである。床面はおおよそ79.45m程度となり、床下に掘方がある。重複は10号・24号住居跡に切られている。土坑は89号・88号・90号91号・94号土坑に切られる。カマドは東にあり、10号住居および90号土坑により東部の大半は壊されている。残存は焚き口部と燃焼部とみられる灰と炭化集中部である。袖の先端部と天井部には黄褐色の砂岩塊を構築材として利用している。また、カマドの底面および、周辺部で、炭の集中部が確認された。出土遺物は床面から土師器の坏があり、掘方からも土師器の坏片が確認されている。遺構の年代は出土遺物から6世紀後半とみられる。



第47図 25号住居跡平面図・断面図・カマド

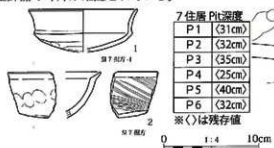


第48図 25号住居跡出土遺物

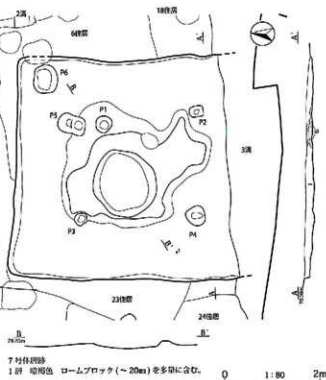


## 7号住居跡（遺構：第50図、遺物：第49図）

本遺構はB2グリッドにあり、南は3号溝により切られ不明となる。形状は方形で東西4.7mで、軸方向はN-93°-Eである。遺構認識した段階で本遺構の床面はなく、掘方最深部は、およそ79.00m前後となる。重複は5号・6号・23号住居跡に切れ、一方、12号・18号住居跡との切り合いは不明である。また、南は3号溝に切られている。カマドは東、北、西では確認できず、確認段階ですでに消滅したか、南辺にあった可能性がある。柱穴はP1からP5までを確認した。またP6はその位置から本遺構の貯蔵穴の可能性が想定される。掘方は壁際から幅1mほどをやや深く掘削し、中央部は掘り残す。また掘り残された中央部には土坑状の掘り込みが確認できた。出土遺物は掘方土層中より土師器の坏片が確認されている。



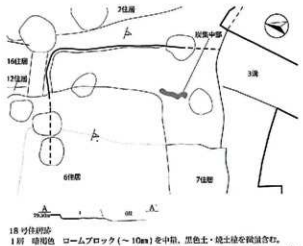
第49図 7号住居跡出土遺物



第50図 7号住居跡平面図・断面図

## 18号住居跡（遺構：第51図）

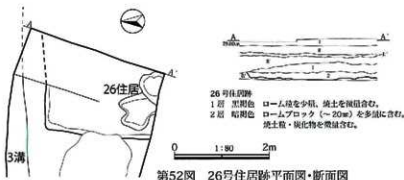
本遺構はB2グリッドにあり、西は6号住居、東は3号溝に切られており遺構形状が部分的に残存する。形状は不明で南北3.6m、軸方向はN-76°-Eである。床面はおおよそ79.15m程度であった。重複は6号住居跡に切られている。ただし7号住居跡とは隣接しているものの切り合いは不明である。その他では3号溝と22号・59号・92号土坑に切られていた。現状でカマドは確認できなかった。一方、遺構の覆土中に炭集中部が確認できたが、遺構に伴うかは不明である。出土遺物はない。



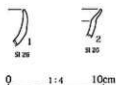
第51図 18号住居跡平面図・断面図

## 26号住居跡（遺構：第52図、遺物：第53図）

本遺構はB3グリッドにある。3号溝の以南にあり、遺構確認のために掘削を行った結果、本遺構が確認された。遺構の東と南は調査区外となる。形状は不明で東西3.4m、南北2.8m、軸方向はN-87°-Eである。床面はおおよそ79.0m前後であった。重複は86号土坑に切られている。また、断面では北にある3号溝に向かってⅡ層が傾斜し、本遺構上層を覆っている。現状でカマドは見られない。出土遺物は須恵器の坏片が確認された。遺構の年代は出土遺物から6世紀前半とみられる。



第52図 26号住居跡平面図・断面図

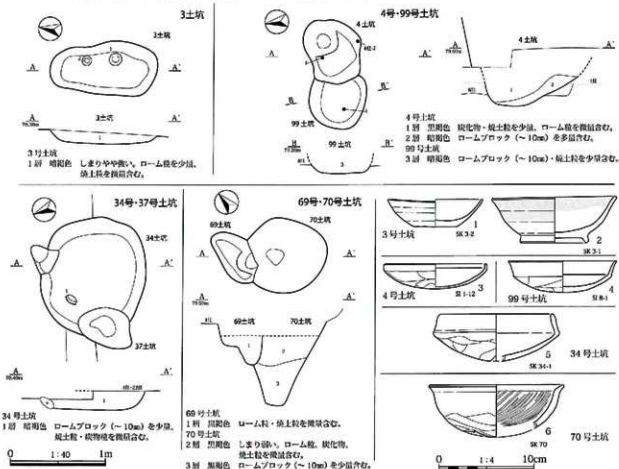


第53図 26号住居跡出土遺物

## 2. 土坑（遺構：第54図、遺物：第55図）

本遺跡においては99基の土坑が確認された。土坑の多くのは住居跡の範囲内で確認されるが、土坑の覆土と住居跡の覆土との区別は困難であり、住居を掘削した段階で認識されたものが多い。また、列状に配置する土坑もみられ、掘立建物跡の一部の可能性もあるが、調査区や遺構の切り合いが多く復元は困難であった。

土坑については遺構配置図と共に遺構観察表により深さを示した。一方、良好な遺物が出土した土坑は、平面図と断面図を示した。3号土坑からはやや酸化気味の須恵器の皿、灰釉陶器が出土した。4号土坑は断面で1号住居跡を切っていたが、上層部の平面プランは不明であり、8号住居の床面で平面プランが確認できた。99号土坑からは7世紀代の環が出土しており、1号・8号住居より新しいと考えられる。34号土坑は4号または22号住居跡の床下で確認された。69号・70号土坑は1号住居跡のカマドの袖を破壊している。70号土坑から出土した土師器の環は1号住居跡の遺物であった可能性がある。



第54図 3号・4号・99号・34号・37号・69号・70号土坑平面図・断面図

第55図 土坑出土遺物

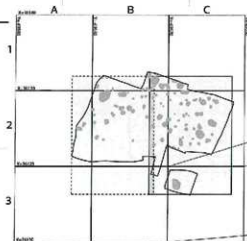
第2表 土坑標高・深度・覆土表

番号	位置 グリッド	上坪標高 (m)	深さ (m)	土質				備考
				色調	ローム	混雑物	土質	
1号土坑	C2-13	79.44	19	黒褐色	多	少	少	A・B を含む
2号土坑	C2-13	79.43	49	暗褐色	少	—	—	A・B を含む
3号土坑	C2-4	79.23	16					第54回 掘削
4号土坑	C2-6	79.21	41					第54回 掘削
5号土坑	B2-3	79.43	26	暗褐色	中	—	—	
6号土坑	B2-12	79.44	24	黒褐色	少	中	—	
7号土坑								11住・P2 に近接
8号土坑	B2-12	79.28	49	黒褐色	少	中	中	
9号土坑	B2-12	79.33	60	黒褐色	少	中	少	
10号土坑	B2-1	79.41	27	暗褐色	少	少	少	
11号土坑								11住・P2 に近接
12号土坑	B2-17	79.36	13	暗褐色	少	少	少	
13号土坑	B2-7	79.45	56	黒褐色	中	—	—	
14号土坑	B2-11	79.27	22	黒褐色	少	少	少	
15号土坑	B2-7	79.23	48	黒褐色	多	—	—	
16号土坑	B2-7	79.43	73	黒褐色	少	少	少	
17号土坑	B2-11	79.19	27	黒褐色	少	—	—	
18号土坑	B1-20	79.25	32	黒色	—	少	多	
19号土坑								7住・P6 に近接
20号土坑								12住・P1 に近接
21号土坑	B2-17	79.12	16	黒褐色	中	—	中	
22号土坑	B2-23	79.20	14	黒褐色	少	—	—	
23号土坑	B2-22	79.27	24	黒褐色	少	—	少	
24号土坑	B2-17	79.33	11	黒褐色	少	—	—	
25号土坑	B2-11	79.23	50	暗褐色	中	—	—	
26号土坑		79.2	32	黒褐色	中	—	—	
27号土坑	B1-10	79.19	47	黒褐色	少	少	少	
28号土坑								12住・P5 に近接
29号土坑	B1-20	79.22	17	黒褐色	中	—	中	
30号土坑	B2-16	79.16	12	黒褐色	—	中	中	
31号土坑	B2-16	79.18	12	黒褐色	—	中	中	
32号土坑								12住・P2 に近接
33号土坑	B2-16	79.49	42	暗褐色	中	—	—	
34号土坑	B1-25	79.24	20					第54回 掘削
35号土坑	B1-25	79.21	8	黒褐色	少	中	中	
36号土坑	B2-21	79.36	28	暗褐色	中	—	中	
37号土坑	B1-25	79.23	23	黒褐色	中	—	中	
38号土坑	B1-20	79.24	41	黒褐色	中	—	中	
39号土坑	B2-23	79.23	16	暗褐色	中	—	中	
40号土坑	C2-2	79.26	61	暗褐色	中	—	中	
41号土坑	B2-21	79.26	29	黒褐色	少	—	—	
42号土坑	B2-21	79.26	24	黒褐色	少	—	—	
43号土坑	B1-19	79.04	30	暗褐色	中	少	中	
44号土坑	B1-24	79.167	42	黒褐色	少	少	少	
45号土坑	C2-2	79.27	37	黒褐色	少	—	—	
46号土坑	C2-1	79.17	20	黒褐色	中	中	中	
47号土坑	C2-7	79.22	17	黒褐色	中	—	中	
48号土坑	C2-7	79.28	33	黒褐色	少	中	少	
49号土坑	C2-7	79.26	17	黒褐色	少	—	—	
50号土坑	C2-6	79.31	31	黒褐色	少	中	中	

番号	位置 グリッド	上坪標高 (m)	深さ (m)	土質				備考
				色調	ローム	混雑物	土質	
51号土坑	C2-4	79.119	47	黒褐色	中	—	中	
52号土坑	C2-6	79.307	32	黒褐色	少	—	—	
53号土坑	C2-13	79.33	42	暗褐色	中	—	中	
54号土坑	C2-9	79.31	38	黒褐色	中	中	中	
55号土坑	C2-14	79.32	45	黒褐色	中	中	中	
56号土坑	C2-14	79.33	47	黒褐色	中	—	中	
57号土坑	C2-13	79.38	23	黒褐色	中	—	中	
58号土坑	C2-7	79.27	30	黒褐色	中	—	中	
59号土坑	B2-24	79.14	21	黒褐色	少	中	中	
60号土坑	C2-1	79.29	36	黒褐色	中	—	中	
61号土坑	B1-25	79.10	15	黒褐色	少	—	—	
62号土坑	B1-25	79.13	59	黒褐色	少	—	—	
63号土坑	B2-21	79.11	10	黒褐色	少	—	—	
64号土坑	C2-1	79.11	11	黒褐色	少	—	—	
65号土坑	C1-5	79.08	31	暗褐色	中	中	中	
66号土坑	C1-5	79.10	38	暗褐色	中	中	中	
67号土坑	C2-6	79.17	30	黒褐色	少	中	中	
68号土坑	C2-6	79.17	26	黒褐色	中	—	—	
69号土坑	C2-11	79.16	18					第54回 掘削
70号土坑	C2-11	79.19	81					第54回 掘削
71号土坑	C2-11	79.33	40	黒褐色	少	—	—	
72号土坑	C2-11	79.32	31	暗褐色	中	—	—	
73号土坑	C2-16	79.27	44	暗褐色	中	—	—	
74号土坑	C2-12	79.24	58	黒褐色	少	—	—	
75号土坑	C2-3	79.20	22	暗褐色	少	—	—	
76号土坑								1住・P1 に近接
77号土坑	C2-4	79.10	17	黒褐色	少	—	—	
78号土坑	C2-2	79.25	14	暗褐色	少	—	—	
79号土坑	B1-25	79.11	22	暗褐色	中	—	—	
80号土坑	B1-25	79.11	67	暗褐色	中	—	—	
81号土坑	C2-6	79.14	18	暗褐色	少	—	—	
82号土坑	C2-3	79.22	19	暗褐色	中	—	—	
83号土坑	C2-9	79.27	8	暗褐色	少	—	—	
84号土坑	C2-4	79.28	20	暗褐色	少	—	—	
85号土坑	C3-2	79.05	40	暗褐色	少	中	中	
86号土坑	C3-2	79.05	43	暗褐色	中	中	中	
87号土坑	B2-14	79.07	25	暗褐色	中	—	—	
88号土坑	A2-23	79.37	57	暗褐色	少	—	—	
89号土坑	A2-23	79.41	23	暗褐色	多	—	—	
90号土坑	B2-3	79.51	46	暗褐色	中	—	—	
91号土坑	B2-2	79.4	53	暗褐色	中	—	—	
92号土坑	B2-24	79.14	19	暗褐色	中	—	—	
93号土坑	B2-4	79.11	12	暗褐色	中	—	—	
94号土坑	B2-2	79.41	20	暗褐色	少	—	—	
95号土坑	C2-8	79.38	37	暗褐色	多	—	—	
96号土坑	B1-5	79.42	15	暗褐色	少	—	—	
97号土坑	B1-5	79.33	13	暗褐色	少	—	—	
98号土坑	B2-1	79.28	56	暗褐色	中	—	—	
99号土坑	C1-21	79.10		暗褐色	少	—	—	第54回 掘削



X=36120



1	6	11	16	21
2	7	12	17	22
3	8	13	18	23
4	9	14	19	24
5	10	15	20	25

小ケリン

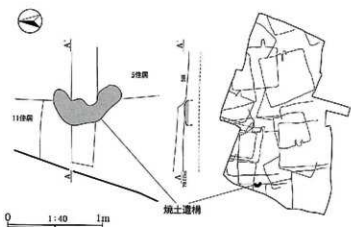
Y=69580



第56图 土坑配置图

### 3. 焼土遺構（遺構：第57図）

本遺構は焼土および炭化部の集中した遺構となる。位置はB2・1グリッドにある。形状はややU字状となり、南北0.7m、東西は0.45mとなる。本遺構は5号住居跡の床面下で明瞭に確認されているため、5号住居跡以外のカマドと想定した。しかし、本遺構の周辺の住居は5号住居跡のほか、北に広がる11号住居跡などがあったが、本焼土をカマドとする住居跡は確認できず、本焼土を焼土遺構として扱った。出土遺物は周辺から土器小片があるのみであった。



第57図 焼土遺構平面図・断面図

### 4. 溝（遺構：第58図）

本遺跡においては3条の溝が確認された。1号および2号溝はA s - B 軽石またはA s - A 軽石を含んでおり、中世から近世の溝と考えられる。3号溝は上層がA s - B 軽石混土であるが、純層のA s - B 軽石は認められないことから、中世の可能性が高い。これらの溝は調査区の東から西にやや弧状に走行し、1号・2号溝はほぼ重なっており、1号溝は2号溝を踏襲したものと考えられる。

#### 1号溝（遺構：第58図）

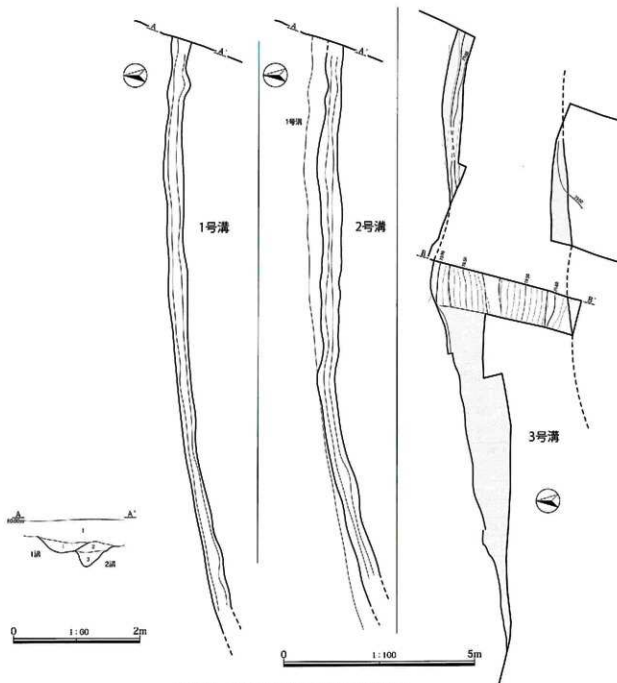
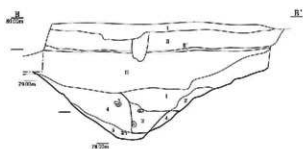
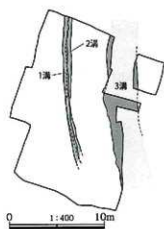
1号溝はB2・C2グリッドに位置する。確認された規模は長さが約15.5m、幅は約0.6m、深さは断面で約25cm、軸角度はN-86°-Eであった。なお、溝は調査区南西部に延びるものと考えられるが、住居遺構確認のために行ったA s - B 混土の掘り下げにより消滅したものと考えられる。本遺構のほとんどは2号溝と並走し、2号溝より新しい。覆土にはA s - A 軽石とみられる白色粒を含む。出土遺物は土師器などのほか、近世の瀬戸美濃焼片があった。

#### 2号溝（遺構：第58図）

2号溝は1号溝同様にB2・C2グリッドに位置する。確認された規模は長さが約15m、幅は約0.6m、深さは断面で35cm、軸角度はN-86°-Eであった。本溝も1号溝と同様に調査区南西部に延びるものと考えられるが、住居遺構確認のために行ったA s - B 混土の掘り下げにより消滅したものと考えられる。重複は1号溝と並走し、北の上端は1号溝に切られている。覆土にはA s - B 軽石とみられる白色粒を含む。出土遺物は土師器、須恵器などのほか、近世の肥前磁器片が出土しており、近世まで使用されたものと考えられる。

#### 3号溝（遺構：第58図）

3号溝は1号溝同様にB2・C2・B3・C3グリッドにまたがる。本遺構は遺構全体の掘削は行っておらず遺構の範囲確認と一箇所の断面記録のみの調査である。規模は調査区の東壁から南壁に走行し、確認された長さは約16m、幅は約3.2m前後、深さは1.1m、軸角度はN-86°-Eである。覆土の上層はA s - B 混土に覆われている。なおA s - B 混土は3号溝の北側は1号・2号溝から南に向かってゆるやかに傾斜し、南側も同様に北に向かって傾斜している。覆土の下層は2期の掘り込みがあり、1層から3層までが新しい段階の溝であり、特に3層は砂質に富む。古い段階の溝は4層から5層であり、両層ともに砂質で、特に5層はラミナ状の堆積となる。この点から、本溝は流水があった可能性が考えられる。

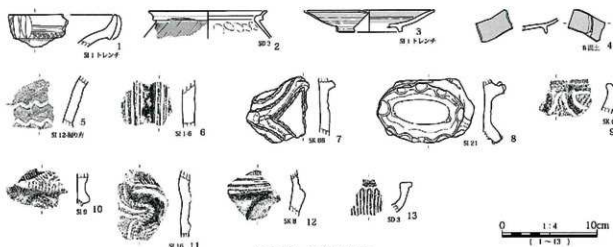


第58图 1号·2号·3号沟平面图·断面图



## 5. 遺構外遺物 (第 59 図)

遺構外遺物は包含層や遺構の時期と異なる時期の遺物を混入とみなした。1と2は古墳時代初めの遺物である。3・4は平安時代の灰釉陶器と緑釉陶器である。縄文土器は中期の遺物を中心に確認されている。今回、縄文時代や古墳時代初めの遺構は確認されていないが、遺物としては確認でき、周辺にこれらの時代の遺構が存在した可能性がある。



第 59 図 遺構外遺物

第 3 表 遺物観察表

1号住居跡出土遺物 (第7～8図)										
図版 No.	出土位置	種類	部材	部位 (保存)	口径・底径・高さ (mm)	形状	色澤	記入物	成・製法	備考
1	床	土師器	坪	口縁～底面 (1/2)	12.9 × 4.05	碗状	褐色	器内・黄褐色・白色点・赤色点	外：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。内：口縁部はコナテ。	
2	カマド	土師器	坪	口縁～底面 (3/4)	13.3 × 5.2	碗状	褐色	器内・黄褐色・白色点・赤色点	外：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。内：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。	
3	床	土師器	坪	口縁～底面 (1/2)	11.4 × 4.3	碗状	黄褐色	器内・黄褐色・白色点・赤色点	外：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。内：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。	
4	床	土師器	坪	口縁～底面 (1/2)	10.9 × 5.7	碗状	黄褐色	器内・黄褐色・白色点・赤色点	外：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。内：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。	
5	カマド	土師器	坪	口縁～底面 (3/4)	13.1 × 4.6	碗状	黄褐色	器内・黄褐色・白色点・赤色点	外：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。内：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。	
6	床	土師器	坪	口縁～底面 (3/4)	12.8 × 5.0	碗状	褐色	器内・黄褐色・白色点・赤色点	外：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。内：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。	
7	床	土師器	瓶	胴下～底面	一一 × 一7.8	瓶状	黄褐色・黄褐色・白色点・赤色点	器内・黄褐色・白色点・赤色点	外：胴～底面はコナテ、口縁部はヘナテ。ナテ。	底面に穴あり。
8	床	土師器	瓶	口縁～胴上1/4部	15.2 一一 × 一19.7	瓶状	褐色	褐色	外：口縁部はコナテ、胴部ヘナテ。内：口縁部はコナテ。	
9	カマド	土師器	瓶	口縁～胴上1/4部	16.5 5.9 × 21.1	瓶状	黄褐色・黄褐色	器内・黄褐色・白色点・赤色点	外：胴部はコナテ、口縁部ヘナテ。内：口縁部はコナテ、胴部ヘナテ。	
10	カマド	土師器	瓶	胴～底面 (1/2)	一一 × 8.0 × 一33.2	瓶状	黄褐色・黄褐色・白色点・赤色点	器内・黄褐色・白色点・赤色点	外：胴部はコナテ、口縁部ヘナテ。内：口縁部はコナテ、胴部ヘナテ。	
11	瓶	土師器	甕	口縁～底面	17.0 6.2 × 36.5	瓶状	褐色	器内・黄褐色・白色点・赤色点	外：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。内：口縁部はコナテ。	
12	カマド	土師器	甕	口縁～底面 (3/4)	24.0 一一 × 一33.7	瓶状	黄褐色・黄褐色・白色点・赤色点	器内・黄褐色・白色点・赤色点	外：口縁部はコナテ、胴部ヘナテ。内：口縁部はコナテ、胴部ヘナテ。	
13	床	土師器	甕	口縁～底面 (1/2)	17.3 一一 × 一21.8	瓶状	黄褐色・黄褐色・白色点・赤色点	器内・黄褐色・白色点・赤色点	外：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。内：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。	

2号住居跡出土遺物 (第11図)										
図版 No.	出土位置	種類	部材	部位 (保存)	口径・底径・高さ (mm)	形状	色澤	記入物	成・製法	備考
1	床	土師器	坪	口縁～底面 (1/2)	12.9 一一 × 一5.1	碗状	褐色	器内・黄褐色・白色点・赤色点	外：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。内：口縁部はコナテ。	坪内に黄色土塊が散在する。
2	床	土師器	坪	口縁～底面 (1/2)	12.1 一一 × 一4.5	碗状	褐色	器内・白色点・赤色点	外：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。内：口縁部はコナテ。	

8号住居跡出土遺物 (第12図)										
図版 No.	出土位置	種類	部材	部位 (保存)	口径・底径・高さ (mm)	形状	色澤	記入物	成・製法	備考
1	床	土師器	坪	口縁～底面 (1/2)	12.9 一一 × 一5.1	碗状	褐色	器内・黄褐色・白色点・赤色点	外：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。内：口縁部はコナテ。	
2	床	土師器	坪	口縁～底面 (1/2)	12.1 一一 × 一4.5	碗状	褐色	器内・白色点・赤色点	外：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。内：口縁部はコナテ。	

11号住居跡出土遺物 (第15図)										
図版 No.	出土位置	種類	部材	部位 (保存)	口径・底径・高さ (mm)	形状	色澤	記入物	成・製法	備考
1	床	土師器	坪	口縁～底面 (1/2)	12.9 一一 × 一5.1	碗状	褐色	器内・黄褐色・白色点・赤色点	外：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。内：口縁部はコナテ。	内側に黄褐色土塊が散在する。
2	瓶	土師器	坪	口縁～底面 (1/2)	11.8 一一 × 一14.8	瓶状	黄褐色・黄褐色	器内・黄褐色・白色点・赤色点	外：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。内：口縁部はコナテ、体部ヘナテ。	
3	瓶	土師器	甕	口縁～底面 (1/4)	17.4 一一 × 一9.9	瓶状	黄褐色	器内・黄褐色・白色点・赤色点	外：口縁部はコナテ、胴部ヘナテ。内：口縁部はコナテ、胴部ヘナテ。	



4号住居跡出土遺物 (第17図)

図番	出土位置	種類	形状	部位 (長×幅×高さ mm)	材質	色調	記入物	成・整形技法	備考
1	床	須恵器	杯	口縁部 (口)	焼成	緑褐色	22号・角筒石・赤色粘土	口タテ成形。底面は手揉み成形。	
2	床	須恵器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・白色粘土・赤色粘土	口タテ成形。	内外面に施化剤を付す。
3	カマド	須恵器	碗	口縁部 (口)	焼成	黄褐色	22号・角筒石・白色粘土・赤色粘土	口タテ成形。内面は手揉み成形。	内外面に施化剤を付す。
4	床	須恵器	碗	口縁部 (口)	焼成	緑褐色	22号・角筒石・赤色粘土	口タテ成形。	
5	床	須恵器	碗	口縁部 (口)	焼成	灰白色	22号・角筒石・赤色粘土	口タテ成形。底面は手揉み成形。	底面は、口縁部と同一成形。
6	床	須恵器	碗	口縁部 (口)	焼成	灰白色	22号・角筒石・赤色粘土	口タテ成形。底面は手揉み成形。	底面は、口縁部と同一成形。
7	カマド	土師器	甕	胴部 (口)	焼成	白色	22号・角筒石・赤色粘土	輪郭成形。胴部は手揉み成形。	
8	床	石製品	砥石	8.2 × 5.2 × 1.3	磨	灰青緑色			底面は、底、頂、両面に磨き出す。

16号住居跡出土遺物 (第19図)

図番	出土位置	種類	形状	部位 (長×幅×高さ mm)	材質	色調	記入物	成・整形技法	備考
1	甕上	土師器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	外：口縁部コナナリ。内：口縁部コナナリ。底面は手揉み成形。	
2	甕上	土師器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	外：口縁部コナナリ。内：口縁部コナナリ。底面は手揉み成形。	
3	甕上	土師器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	外：口縁部コナナリ。内：口縁部コナナリ。底面は手揉み成形。	

19号住居跡出土遺物 (第21図)

図番	出土位置	種類	形状	部位 (長×幅×高さ mm)	材質	色調	記入物	成・整形技法	備考
1	甕上	土師器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	口タテ成形。底面は手揉み成形。	

3号住居跡出土遺物 (第23図)

図番	出土位置	種類	形状	部位 (長×幅×高さ mm)	材質	色調	記入物	成・整形技法	備考
1	床	土師器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	外：口縁部コナナリ。内：口縁部コナナリ。底面は手揉み成形。	

20号住居跡出土遺物 (第24図)

図番	出土位置	種類	形状	部位 (長×幅×高さ mm)	材質	色調	記入物	成・整形技法	備考
1	甕上	土師器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	外：口縁部コナナリ。内：口縁部コナナリ。底面は手揉み成形。	

5号住居跡出土遺物 (第28図)

図番	出土位置	種類	形状	部位 (長×幅×高さ mm)	材質	色調	記入物	成・整形技法	備考
1	床	土師器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	外：口縁部コナナリ。内：口縁部コナナリ。底面は手揉み成形。	
2	甕上	土師器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	外：口縁部コナナリ。内：口縁部コナナリ。底面は手揉み成形。	
3	床	土師器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	外：口縁部コナナリ。内：口縁部コナナリ。底面は手揉み成形。	
4	床	土師器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	外：口縁部コナナリ。内：口縁部コナナリ。底面は手揉み成形。	
5	床	土師器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	外：口縁部コナナリ。内：口縁部コナナリ。底面は手揉み成形。	
6	床	土師器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	外：口縁部コナナリ。内：口縁部コナナリ。底面は手揉み成形。	
7	床	土師器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	外：口縁部コナナリ。内：口縁部コナナリ。底面は手揉み成形。	

9号住居跡出土遺物 (第30図)

図番	出土位置	種類	形状	部位 (長×幅×高さ mm)	材質	色調	記入物	成・整形技法	備考
1	床	須恵器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	口タテ成形。底面は手揉み成形。	
2	床	須恵器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	口タテ成形。底面は手揉み成形。	
3	床	須恵器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	口タテ成形。底面は手揉み成形。	
4	カマド	須恵器	碗	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	口タテ成形。底面は手揉み成形。	
5	カマド	須恵器	碗	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	口タテ成形。底面は手揉み成形。	
6	カマド	須恵器	碗	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	口タテ成形。底面は手揉み成形。	
7	床	土師器	甕	胴部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	口タテ成形。底面は手揉み成形。	

13号住居跡出土遺物 (第32図)

図番	出土位置	種類	形状	部位 (長×幅×高さ mm)	材質	色調	記入物	成・整形技法	備考
1	床	石製品	管玉	2.4 × 0.7	磨	灰青緑色			管径：2.4mm、長さ：0.7mm、重量：0.5g。
2	甕上	土師器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	外：口縁部コナナリ。内：口縁部コナナリ。底面は手揉み成形。	
3	カマド	須恵器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	口タテ成形。底面は手揉み成形。	
4	床	須恵器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	口タテ成形。底面は手揉み成形。	
5	須恵器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	口タテ成形。底面は手揉み成形。		
6	床	須恵器	杯	口縁部 (口)	焼成	暗赤褐色	22号・角筒石・赤色粘土	口タテ成形。底面は手揉み成形。	

## 13 号住居跡出土遺物 (第 32 圖)

種名	出土位置	場所	器種	断片	口径・直径・断面 (mm)	地産	色調	混入物	素・装飾模様	備考
				(残存)	長さ×幅×厚さ (mm)					
7	床	近宮庭	土埴	口縁上・断片 (1/8)	(21.0 × - × 1.0)	陶化	灰白・黄緑	雲母・角閃片・白色砂子		外：口縁縁部に土子。断片は底面否？ 内：口縁部は土子。断片は底面ハナラサダ・土子。
8	庭	近土庫	土埴	口縁上・断片 (1/4)	(22.1 × - × 1.2)	陶化 灰緑	黄緑・黄褐色	雲母・角閃片・白色砂子・赤色砂子		口縁上縁部、断片は底面。
9	庭	近土庫	土埴	口縁上・断片 (1/4)	- × - (17.0)	陶化 灰白	灰白・黄緑	雲母・角閃片・白色砂子・赤色砂子		外：断片は底面ハナラサダ。下部部ハナラサダ。

15 号住居跡出土遺物 (第 34 図)

和名	土名	科属	科名	部位	【学名・英名・学名(和)】 【学名】	用途	色調	収入数	収・収量	備考
1	浜	福山郡	浜	口部・底面部分 (14)	(12.0m、6.8-6.5)	埋立瓦版	灰褐色	雲母・白色乾土・褐色砂	ココロ型製、底面部分。	
2	浜	河津郡	土居	土居・底面部分 (16)	段1.20、一・0.80	埋立瓦版	灰色	雲母・雲母・白色乾土	外：口部・底面部分、底面部分中へツケズ、 内：口部・底面部分。	
3	津	河津郡	土居	土居・底面部分 (17)	段0.6、一・0.5(底)	埋立瓦版	土赤・褐色	灰白色砂・雲母・白色乾土・褐色砂	輪切製、ココロ型製、断面部分。	
4	坂	美濃郡	坂	坂一面部分 (18)	一・23.0、断面	瓦版	土赤・褐色	灰白色砂・雲母・白色乾土	断面ココロ型、断面部分。	

11 号住居跡出土遺物 (第 36 図)

種別 No.	産土国等	種類	器種	部位 (部位) (部位)	寸法・重量・容量等 (寸法・重量・容量等)	産地	色調	形状・破入等	製・整・飾方法	備考
1	オランダ	磁器皿	坪	口縁一處部	(10.0・(5.2)・2.0)	鹿土 産地	紅・黄・淡粉色	無傷・白色釉子・ 赤染付	ロウカ成焼。底面輪刻模様。	
2	オランダ	磁器皿	坪	口縁一處部	一 7.5・(2.0)	鹿土 産地	黄・淡粉色	無傷・内面白・白磁釉子	ロウカ成焼。	
3	オランダ	磁器皿	坪	口縁一處部 (1/2)	(14.2)・一 3.0	鹿土 産地	明黄褐色一色色	無傷・内面白・内面釉子・ 赤染付	ロウカ成焼。	内面欠け。
4	オランダ	磁器皿	朝蓋	口縁部	一 9.0・(2.2)	鹿土 産地	粉色	無傷	ロウカ成焼。内面白。	
5	オランダ	磁器皿	朝蓋	口縁部	一 11.0・(2.2)	鹿土 産地	紅・黄・一色色	無傷・内面白・白磁釉子・ 赤染付	特殊工法で焼成した。手取ヘタケズ。底・口縁に黒い線刻模様。	

12号住居跡出土遺物（第38図）

品名	商品コード	種類	単位	数量	口荷・運賃・梱包費等 (参考)	完成	色調	採入数	成・作業形態	備考
1	黄	土砂類	坪	1坪(1.5坪) (1.5坪)	---	砕花	暗褐色・灰色	雲母・角閃石・白色結核・赤色結核	外・口掘削コンクリート。体部ヘラツキ等。	
2	黄	土砂類	坪	1坪(1.5坪) (1.5坪)	---	砕花	暗褐色・灰色	雲母・角閃石・白色結核・赤色結核	外・口掘削コンクリート。体部ヘラツキ等。	
3	赤	土砂類	坪	1坪(1.5坪) (1.5坪)	---	砕花	暗褐色・灰色	雲母・角閃石・白色結核・赤色結核	外・口掘削コンクリート。体部ヘラツキ等。	
4	赤	土砂類	小袋	1袋(1.5坪) (1.5坪)	---	砕花	暗褐色・灰色	雲母・角閃石・白色結核・赤色結核	外・口掘削コンクリート。体部ヘラツキ等。	
5	赤	土砂類	小袋	1袋(1.5坪) (1.5坪)	---	砕花	暗褐色・灰色	雲母・角閃石・白色結核・赤色結核	外・口掘削コンクリート。体部ヘラツキ等。	
6	赤	土砂類	小袋	1袋(1.5坪) (1.5坪)	---	砕花	暗褐色・灰色	雲母・角閃石・白色結核・赤色結核	外・口掘削コンクリート。体部ヘラツキ等。	
7	カマド	土砂類	袋	1袋(1.5坪) (1.5坪)	---	砕花	暗褐色・灰色	雲母・角閃石・白色結核・赤色結核	外・口掘削コンクリート。体部ヘラツキ等。	
8	カマド	土砂類	袋	1袋(1.5坪) (1.5坪)	---	砕花	暗褐色・灰色	雲母・角閃石・白色結核・赤色結核	外・口掘削コンクリート。体部ヘラツキ等。	
9	カマド	土砂類	袋	1袋(1.5坪) (1.5坪)	---	砕花	暗褐色・灰色	雲母・角閃石・白色結核・赤色結核	外・口掘削コンクリート。体部ヘラツキ等。	
10	カマド	土砂類	袋	1袋(1.5坪) (1.5坪)	---	砕花	暗褐色・灰色	雲母・角閃石・白色結核・赤色結核	外・口掘削コンクリート。体部ヘラツキ等。	

6号住居跡出土遺物(第40図)

序号	出工日期	项目	面积	面积 (平方米)	口径、规格、厚度(mm)	材质	色调	以人数	成、整型方法	备注
1	晚上	油漆	坪	(1.3.8)-(7.5)-2.8	透光	灰色	易品片岩、空石、白色石子	20人成线、涂漆		
2	晚上	油漆	坪	(1.3.8)-(7.5)-2.8	透光	灰色	白色石子	20人成线、涂漆		
3	晚上	油漆	坪	(1.3.8)-(7.5)-2.8	透光	灰色	白色石子	20人成线、涂漆		

23 号住居跡出土遺物 (第 41 図)

図録 No.	出土位置	種類	器種	部位	口徑・底径・器高(mm)	焼成	色澤	湿人物	成・型用技法	備考
				(底径)	口径×底径×器高(mm)					
1	甕土	土甕器	坏	口縁・底径(1/2) 0.00	(12.0)・—・(3.0)	焼化	緑色	雲母・角閃石・白色砂子	外：口縁部ヨコナシ。体下部ヘラズリ？ 内：口縁部ヨコナシ。体部ナシ	

10 号住居跡出土遺物 (第 43 図)

版元	著・演出	原典	脚・演出	原典	脚・演出	衣装	色調	習人物	舞・装・技法	備考
1	西土	桂路園 美	山口一樹 (現任)	口口×口口×口口 ―― 16.2	義太	に、白、黒色	習、角形竹、自由椅子、 自由土	外：口口口口口口口口。口口口口口口口口。		
2	西土	桂路園 美	山口一樹 (現任)	口口×口口×口口 ―― 16.2	義太	に、白、黒色	習、角形竹、自由椅子、 自由土	外：口口口口口口口口。口口口口口口口口。		

## 24 号住居跡出土遺物 (第 45 図)

試料 No.	土質・土種	種類	芯材	断面 (mm)	径×長さ・断面積 (mm <sup>2</sup> )	塊数	色調	記入人物	成・製法技法	備考
1	床	石製品	管玉	断面	0.21 × 0.75		暗緑灰色		片割面。古墳時代前期	伊良、直経上は2.4mm、下1.2mm、厚さ約2mm。
2	床	土製品	環	口縁→底面	— × — (底面)	複数	灰～黄褐色	遺跡・内周部・底部は片割	外：口縁部コナチ。内：口縁部コナチ。内：周が比較的粗い。表面に細かな刻み模様あり。	
3	地方	土製品	鉢	口縁→底面	— × — (底面)	複数	灰～黄褐色	遺跡・内周部・白色地帯・黄色地帯	外：口縁部コナチ。内：口縁部コナチ。	

25 号住居跡出土遺物 (第 48 図)

[illegible]

## 7号住居跡出土遺物(第49図)

順 号	曲上位置	場所	部材	備付 (原付)	上履・履物・服装等 (長尺・短尺・寸法等)	道具	色調	関入時	型・製作技法	備考
1	両方	土師窯	球	口内・体部 (11.0寸×φ4.5寸)	釉化	明暖色	雪青、赤色系		外：1面露出コナチ、体部ヘラツクスリ、内：黒に黒い粒状五酸化	
2	両方	土師窯	球	口内・体部 ――(尺法)	酸化	暗暖色	茶緑、黄緑、白色點子、赤色點子		外：口内露出コナチ、体部ヤシロと面磨、内：口内コナチ、体部赤點子	

## 26号住居跡出土遺物(第53回)

材料名	出所位置	時期	器種	部位	口径・底径・高さ(mm)	地味	色調	記入物	写真・撮影技法	備考
				(形状)	長さ・口部厚さ(mm)					
1	羅土	土器Ⅲ	鉢	口縁・体部	—, —, 口力	釉薬	明褐色	笠野、内腹石、白色粒点、赤褐色	外：口部紅褐色子子。 内：口部紅褐色子子。口縁・体部に草文。	
2	羅土	土器Ⅲ	鉢	口縁・体部	—, —, 口力	釉薬	褐色	笠野、白色粒点	外：口部紅褐色子子。 内：口部紅褐色子子。体部に草文。	

## 3号土坑出土遺物(第55圖)

站名	土质位置	树种	规格	郁闭	口径、冠幅、高度(m)	树龄	色别	针叶树	其他植物性	備考
				(直径)	最长×幅×冠高					
1	腐土	筑前国	坪	说明	10.0・4.5・2.0	量	浅黄褐色	常绿、白色种子、褐色种子	クロコナ属。筑前国産。赤子。	
2	腐土	筑前国	坪	说明	13.2・6.4・4.9	量	褐色	白色种子	筑前国産。赤子、白色种子。筑前国産。赤子。	

## 4号土坑出土遺物(第55圖)

調査年度	調査地点	林型	調査種	直径	1.3m、直径・高さ (cm)	樹種	色澤	器入物	産・産地状況	備考
				(樹径)	長さ×幅×厚さ (cm)					
1	農土	土知郎	坪	1.3m・高部 (1/3)	10.6・-・2.7	酸化	酸色	雷州・角田村・自然降子	外：100部産コナシ、林部ヘラケズリ、 内：ナシ。	

## 99 号土坑出土遺物 (第 55 圖)

調査 区	出土位置	材料	器種	形状	寸法、重量、器高(cm) (現在) 長さ×幅×高さ(mm)	材質	色澤	器内物	産、製法	備考
				1口・底径、器高(cm)						
1	甕土	土製器	埴	1口・底径 (2/3)	(11.4)・--・33	甕化	褐色	當時、角礫石、白色砂子、赤色粘土	甕：1口・底径3コナリ。 内：ナリ。	

## 34 号土坑出土遺物 (第 55 圖)

調査地	出土位置	種類	器種	部位	1.7倍・縦径・部高(cm)	図案	色調	胎人物	成・製造技法	備考
				(横径)	長さ×厚さ(mm)					
1	甕上	土師器	埴	1.7倍・底径	12.4・…・(5.0)	側面	に黄・褐色	器形・白色胎子・赤色灰子	外：口辺等コナズ。体部ヘラケズリ。 内：口部等コナズ。	

## 70 号土坑出土遗物 (第 55 图)

図版 No.	出土位置	種類	路線	部位	1段・縦体・断面(mm)	産地	色調	器人物	成・装身技法	備考
				(横径)	長さ×幅×厚さ (cm)					
1	甕土	土師器	坪	口縁・灰部 (2~4cm)	14.1、--、5.0	熊鷹	明赤褐色	石炭・角閃石、白色磁子・赤色磁子	外：11部筋目コナダ、体部ヘラケズリ・ナナズ、内：11部筋目コナダ、体部に施文。	

## 遺構外出土遺物（第59回）

河名	山土位置	民集	距離	方位 (方位)	口徑・波打・水深 (m) 長さ×幅×深さ	橋	色川	遊人	成・樹形・林	備考
1	竹原郷人	土師郷	寄	口附近	一、一、〇・四	橋	藍色	空堀・内堀、自由橋、 赤松子	口に2つの水鏡、矢羽状の滝目文。	
2	西郷人	土師郷	5才先	淵	〇・四、一、一		藍色	自由橋	河に3つの水鏡、季節(1)。 樹(1)も樹(2)も。	
3	西郷郷人	坂田郷	約5分	上流	1.7m×0.6m(1.4m)		良好	両流色	碧緑	河川成。土田に赤い岩あり。
4	西郷郷人	坂田郷	約5分	上流	一、一、〇・四	良好	両流色	坂田(土)土 0.7m(1.4m)	河川成。内外部に崖。	河川成。

日期	由 1 至 10	姓名	WMS
----	----------	----	-----

[illegible]

## 第V章 まとめ

### 1. 2号住居跡出土の赤色土塊について

本遺跡の2号住居跡では土師器の坏に入った赤色土塊が出土した。土師器の坏の半片は住居壁際で赤色土塊が入った状態で確認され、もう半片はカマドの南にある土器集中部から出土し、接合しほぼ1個体となった。この坏は須恵器の蓋模倣の坏で、底部は丸みが強く、稜はやや弱い、口縁部は外反して開く。内面には海状の宛磨がなされている。これに類似する坏は6世紀中頃に降下したF Pに覆われた黒井峯遺跡のB-53祭祀遺構などの事例がある。赤色土塊は坏の内面約1/2に偏っており、赤褐(10 R 5/4)を呈し、径6cm程度の潰れた球状で、表面はやや粗く3~5mm程度の小礫がみられる。

今回、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、杉山秀弘氏の御好意により金井東裏遺跡出土の赤玉との比較を肉眼で行うことができた。なお、現時点で金井東裏遺跡は未報告である。金井東裏遺跡出土の赤玉はおおよそ赤橙(10 R 6/8)に近く、本遺跡の赤色土塊に比べるとやや赤みが強い。逆に、本遺跡の赤色土塊はやや紫がかっている。表面については本遺跡の赤色土塊はやや粗い表面であるが、金井東裏遺跡の赤玉はやや細かな粒子で整っている。ただし、金井東裏の割れ口部はやや粗く、小礫がみられ、本遺跡の赤色土塊の表面と類似している。

本遺跡の赤色土塊は坏に入った状態で出土した。一方、これまで県内で出土している赤玉は団子状に固められたものである。また、金井東裏遺跡出土した赤玉との肉眼による比較では色調、表面には違いが見られた。しかし、本遺跡の赤色土塊は、おおむね赤色であるとともに、小礫を含む塊であり、金井東裏の赤玉の内部に近い。この点から見れば、肉眼観察では本遺跡の赤色土塊は赤玉、あるいは赤玉に近い土塊とみることができる。今後は自然科学分析を行い、前例の赤玉との比較を行う必要がある。

### 2. 住居跡の年代

本遺跡では25軒の住居跡が確認された。これらの住居跡はおおよそ古墳時代の後期から平安時代にかけての住居跡であり、特に古墳時代の後期と、平安時代の10世紀後半から11世紀にかけての住居跡がピークとなっている。各住居跡は遺構の切り合いや、出土遺物から年代を推定し、第4表にまとめている。

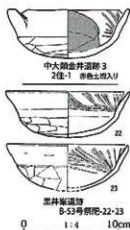
古墳時代と想定される住居跡は本調査区内のほぼ全面で確認されおり住居1軒あたりの規模が大きい。一方、平安時代の住居跡は調査区の北西部に集中し、比較的狭い範囲で数回の建て替えを繰り返した傾向がみられる。なお6号・23号住居跡は上記の2つのピークとは異なる時期であり、遺構数も少ない。ただし両住居跡ともに出土遺物は少なく、明確な年代としがたい。

第4表 住居跡の年代

古墳時代住居跡	
8号住居跡	5世紀後-6世紀前
3号住居跡	5世紀後-6世紀前
21号住居跡	6世紀前
1号住居跡	6世紀前
26号住居跡	6世紀前
2号住居跡	6世紀前-中
12号住居跡	6世紀後
7号住居跡	6世紀後
25号住居跡	6世紀後
10号住居跡	6世紀後
20号住居跡	6世紀
24号住居跡	6世紀後-7世紀前

奈良・平安時代住居跡	
23号住居跡	7世紀後-8世紀前
6号住居跡	9世紀後
11号住居跡	10世紀前
15号住居跡	10世紀後
4号住居跡	10世紀後
13号住居跡	10世紀後
19号住居跡	10世紀後
16号住居跡	10世紀後
9号住居跡	11世紀前
5号住居跡	11世紀前

時期不明住居跡	
14号住居跡	8住より新しい。
18号住居跡	10住に切られる。
22号住居跡	11-13住に切られる。



第60図 中大類金井遺跡3と黒井峯遺跡出土の土師器坏



第61図 住居跡の変遷

### 3. 周辺の遺跡

本遺構の周辺では高崎健康福祉大学敷地内において発掘調査が行われている。本遺跡の北西 30m には中大類金井遺跡、東 70m には中大類金井分遺跡、さらに東に 70m には中大類・天田遺跡がある。これらの遺跡では本遺跡同様、古墳時代から平安時代の住居跡が確認されており、中大類金井遺跡で 10 軒、中大類金井部分遺跡で 17 軒、中大類・天田遺跡で 4 軒がそれぞれ確認されている。このため本遺跡を含めた台地一帯は古墳時代から平安時代にかけての集落であったことが想定される。その範囲は本遺跡から西は約 40m の中大類金井遺跡のⅡ区までとみられ、東は中大類金井分遺跡を含み、本遺構から東に 140m ある旧地形の谷または、さらに中大類・天田遺跡を超える範囲であった可能性もある。特に古墳時代後期の住居跡においては本遺跡の密度が高く、集落中心であった可能性がある。



第62図 中大類金井の遺跡

### 4. 総括

本遺跡では調査区のほぼ全面で住居跡、土坑、溝などが確認された。住居跡は古墳時代後期と平安時代である 10 世紀後半から 11 世紀代にかけての二つの時期がそのピークであった。この中で古墳時代の住居跡としては 1 号住居跡ではカマドに据え付けられた状態の土師器の甕や、坏などがあり、この時期の典型的な遺物組成であった。また 2 号住居跡では土師器の坏に盛られた状態で見つかった赤色土塊がある。この赤色土塊はいわゆる「赤玉」の可能性があり、赤玉であるならば、伊勢崎市の本間町古墳群、中之条町の伊勢町地区遺跡群、渋川市の金井東裏遺跡に次ぐ発見である。本遺跡では住居跡から出土し、坏に盛られた状況であり、赤玉の使用例とし貴重な事例となる。

一方、平安時代においては、4 号住居跡では灰釉陶器と須恵器の坏や碗のセットが出土し、3 号土坑でも灰釉碗と須恵器の坏が完形の状態を確認されている。また、9 号住居では 11 世紀代の須恵器の坏と碗類などが見られ、中大類周辺の遺跡群としてはある程度まとまった資料となった。

中世に関わる遺構としては 3 号溝がある。遺構は東西に延長するものと推定され、B 混土層により埋没しており、明治時代の地引絵図や戦前の航空写真などではその痕跡は確認できなかった。周辺には本遺構の東にある中大類・天田遺跡は堀や掘立建物跡群からなる中世の館とみられ、さらに谷を挟んだ東には降照屋敷がある。3 号溝はこのような館・屋敷などのあった時期の遺構とみられ、館・屋敷周辺の開発のための水路の可能性や、3 号溝自体が館・屋敷の堀であった可能性も考えられる。

## 参考文献

- 高崎市遺跡調査会 『中大類金井分遺跡』 1992 高崎市遺跡調査会
- 高崎市遺跡調査会 『中大類金井遺跡』 1989 高崎市遺跡調査会
- 水谷貴之 『中大類・天田遺跡』 2011 高崎市教育委員会
- 山武考古学研究所 『中大類沖田遺跡』 2000 高崎市遺跡調査会
- 高崎市教育委員会 『高崎市内遺跡緊急埋蔵文化財発掘調査報告書』 1989 高崎市教育委員会
- 福嶋正史 『下大類・中道下遺跡』 2010 高崎市教育委員会
- 山武考古学研究所 『下大類蟹沢遺跡』 1993 高崎市遺跡調査会
- 高崎市教育委員会社会教育課文化財保護課 『元島名將軍塚古墳』 1981 高崎市教育委員会
- 高崎市教育委員会社会教育課文化財保護課 『元島名遺跡』 1979 高崎市教育委員会
- 山武考古学研究所 『高崎情報団地遺跡』 1992 高崎市遺跡調査会
- 角田真也 『高崎情報団地Ⅱ遺跡』 2002 高崎市教育委員会
- 高崎市教育委員会社会教育課文化財保護係 『宿大類遺跡群Ⅵ 万相寺遺跡』 1985 高崎市教育委員会
- 高崎市教育委員会社会教育課文化財保護係 『宿大類遺跡群(5) 天神久保遺跡』 1985 高崎市教育委員会
- 高崎市教育委員会社会教育課文化財保護係 『宿大類遺跡群(3) 鳥山・天神遺跡』 1984 高崎市教育委員会
- 関口修、斎藤寛方、鷺谷亨信 『南大類東沖・稲荷遺跡』 1997 高崎市教育委員会
- 高崎市教育委員会社会教育課文化財保護係 『柴崎遺跡群Ⅴ』 1989 高崎市教育委員会
- 高崎市教育委員会 『柴崎吹手B・吹手西D遺跡』 1997 高崎市教育委員会
- 高崎市史編さん委員会 『新編高崎市史 資料編1 原始古代』 1999 高崎市
- 高崎市史編さん委員会 『新編高崎市史 資料編2 原始古代2』 2000 高崎市
- 高崎市史編さん委員会 『新編高崎市史 資料編3 中世1』 1996 高崎市
- 須田正久、石田典子 『本関町古墳群・関遺跡(2)』 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 石井克己 『黒井峯遺跡発掘調査報告書』 1991 子持村教育委員会
- 坂口 一 「古墳時代後期の土器の編年」『群馬文化 208号』 1986 群馬県地域文化研究協議会
- 坂口 一 「奈良・平安時代の土器の編年」『群馬県史研究 24号』 1987 群馬県史編さん委員会

# 写 真 图 版





1. 調査区全景 南から（写真は南北の調査区を合成した）



2. 1号住居跡 西から



3. 1号住居カマド遺物出土状況 西から



4. 1号住居跡遺物集中部 西から



5. 1号住居カマド 西から





1. 2号住居跡 西から



2. 1号住居跡出土遺物 西から



3. 2号住居跡カマド 西から



4. 8号住居跡 西から



5. 21号住居跡 西から



6. 4号住居跡 西から



7. 4号住居跡遺物出土状況 西から



8. 22号住居跡床面の炭範囲 西から



1. 16号・17号住居跡 西から



2. 3号住居跡 南から



3. 5号住居跡 西から



4. 5号住居跡遺物出土状況 近接



5. 5号住居跡カマド 西から



6. 9号住居跡 西から



7. 9号住居跡カマド遺物出土状況 東から



8. 9号住居跡カマド 東から



1. 13号住居跡 西から



2. 13号住居跡遺物出土状況 西から



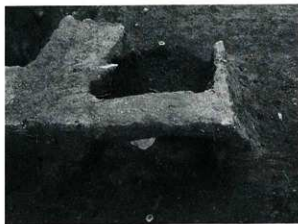
3. 13号住居跡遺物集中部 直上から



4. 15号住居跡 西から



5. 11号住居跡 西から



6. 11号住居跡カマド天井部 西から



7. 11号住居跡カマド 西から



8. 15号住居跡カマド 西から



1. 12号住居跡遺物出土状況 西から



2. 12号住居跡カマドと12号土坑の切り合い 西から



3. 6号住居跡北部 南から



4. 6号住居跡カマド 東から



5. 23号住居跡床面の残存 西から



6. 10号住居跡 西から



7. 24号住居跡 西から



8. 24号住居跡カマド 西から





1. 25号住居跡 西から



2. 25号住居跡カマド天井部 直上から



3. 7号住居跡掘方 西から



4. 3号土坑遺物出土状況 西から



5. 34号土坑 東から



6. 1号・2号溝 東から

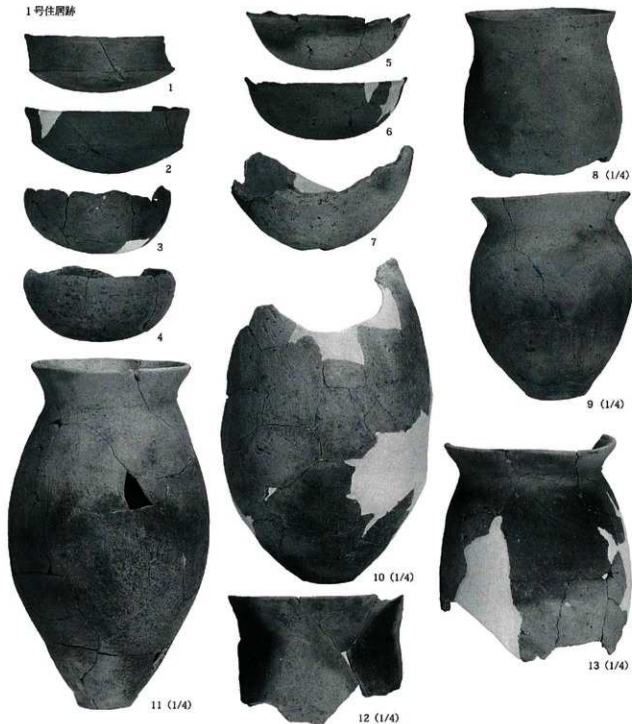


7. 3号溝 西から



8. 3号溝底面確認トレンチ 南から

1号住居跡



2号住居跡



21号住居跡



8号住居跡



4号住居跡



16号住居跡



19号住居跡



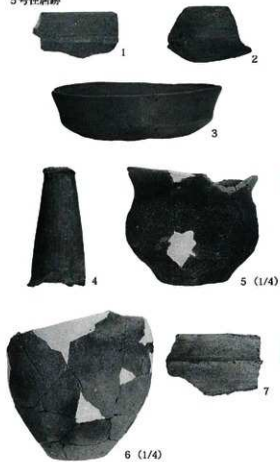
3号住居跡



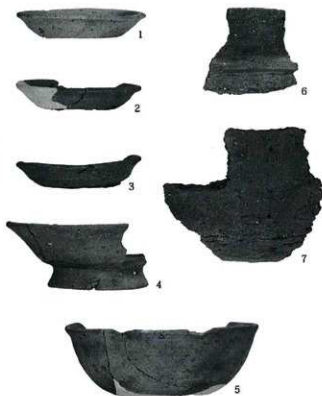
20号住居跡



5号住居跡

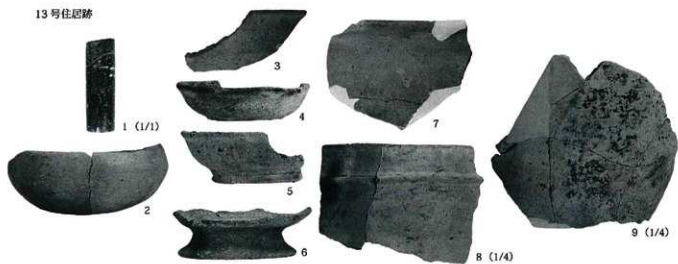


9号住居跡

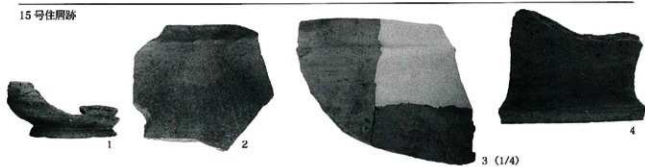




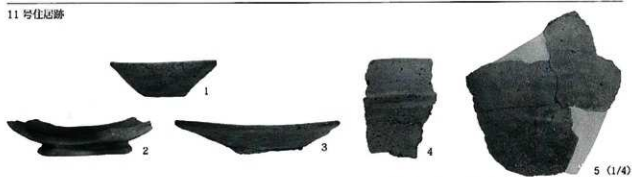
13 号住居跡



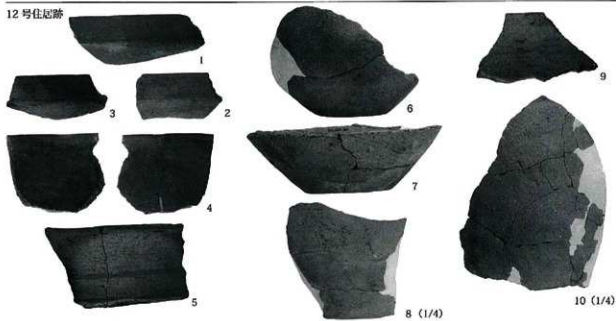
15 号住居跡



11 号住居跡



12 号住居跡



6号住居跡



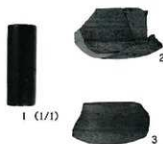
23号住居跡



10号住居跡



24号住居跡



25号住居跡



7号住居跡



26号住居跡



3号土坑



4号土坑



99号土坑



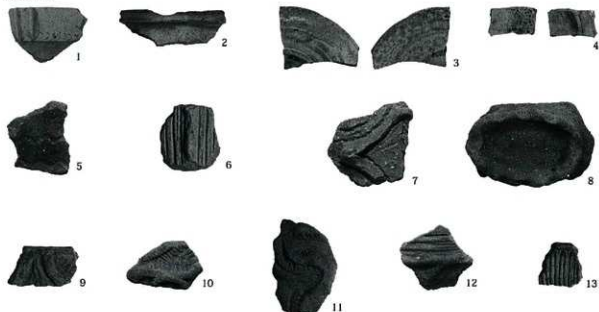
34号土坑



70号土坑



道轛外遺物



# 報告書抄録

ふりがな	なかおるいかないせきさん							
書名	中大類金井遺跡 3							
副書名	集合住宅の建設に伴う埋蔵文化財発掘調査							
巻次								
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 391 集							
編著者名	青木利文							
編集機関	山下工業株式会社							
	〒 371-0244 群馬県前橋市繰毛石町 207-8							
発行機関	高崎市教育委員会 文化財保護課							
発行年月日	2017 年 6 月 30 日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査対象面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかおるいかないせきさん 中大類金井遺跡 3	ぐんまけん たかざきし 群馬県高崎市 なかおるいかないせきさん 中大類金井分 み 509 番 3	102020	676	36° 19' 23"	139° 03' 31"	2016.06.01 ～ 2016.07.15	192.3㎡	集合住宅 建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
中大類金井遺跡 3	包含層	縄文時代	なし	縄文土器		遺構は確認できず、中期の遺物。		
	集落	古墳時代 ～ 平安時代	住居跡	25 軒	須恵器	古墳前期は遺物のみ。後期住居は 12 軒。2 号住居跡からは土師器の坏に盛られ状態の赤色土塊（赤玉か）が確認される。 平安時代の住居は 10 軒。10 世紀後半から 11 世紀代が中心となる。4 号住居跡、3 号土坑は 10 世紀後半とみられる灰釉と須恵器が出土。9 号住居跡は 11 世紀代の須恵器などが出土。		
			土坑	92 基	赤色土塊 砥石			
	生産跡	中～近世	溝	3 条	陶磁器類	3 号溝は B 混土により覆われる。東西方向に延びる。水路または、館、屋敷の堀か。1 号・2 号溝は A 混土および B 混土を含み近世以降の溝。		

## 中大類金井遺跡 3

—集合住宅の建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2017 年 6 月 22 日 印刷

2017 年 6 月 30 日 発行

発 行 高 崎 市 教 育 委 員 会

編 集 山 下 工 業 株 式 会 社

印 刷 朝 日 印 刷 工 業 株 式 会 社